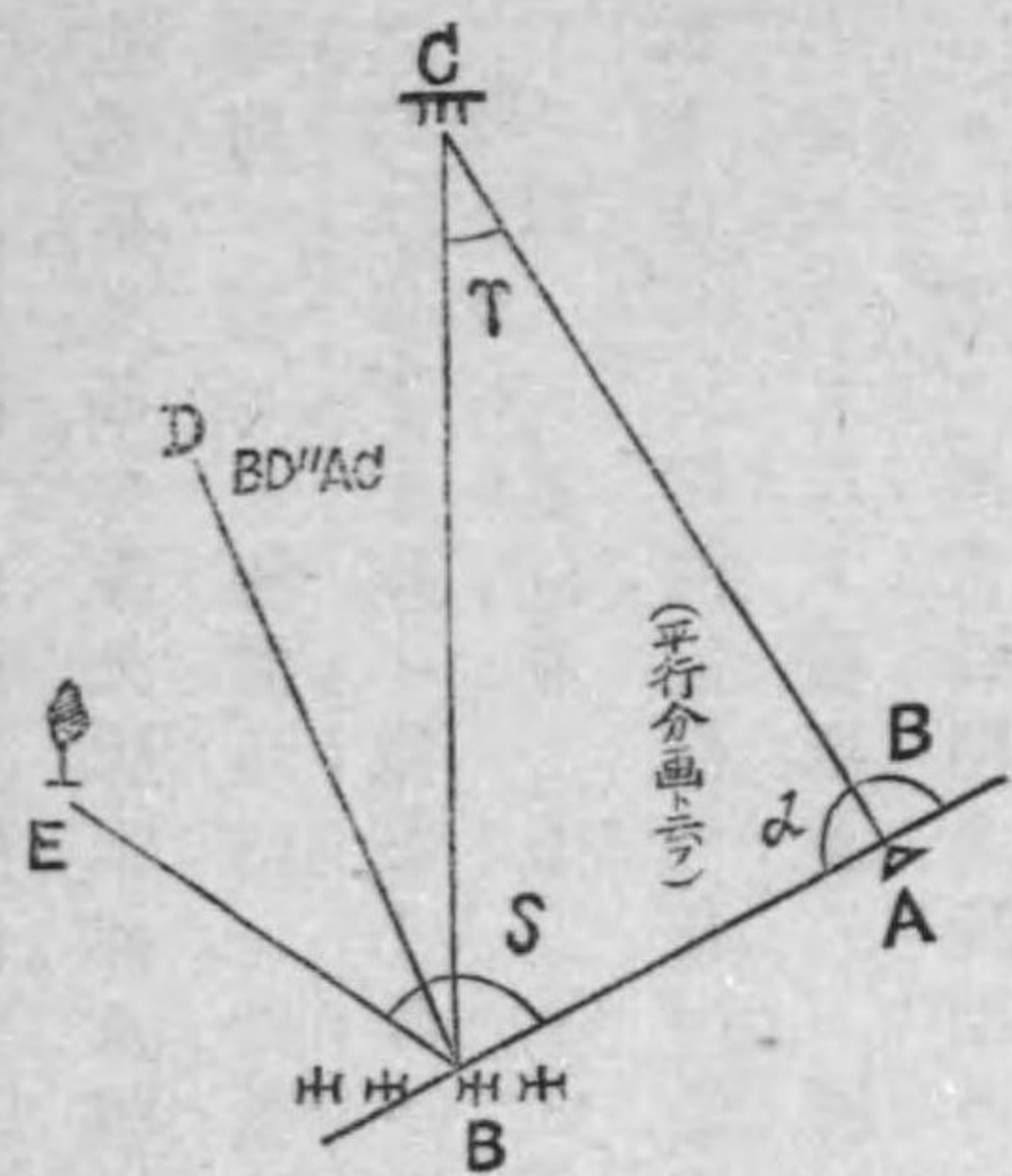


三 方向面ノ決定法

重砲兵ハ遮蔽陣地ヲ占領スルヲ原則トシ而カモ其ノ遮蔽度ハ多クノ場合野戰砲兵ノ遮蔽陣地ニ比シテ大ナルベキヲ以テ特ニ方向面ノ決定ニ就キ研究ヲ要ス然レドモ其ノ原理ハ野戰砲兵ノモノト何等異ルコトナク唯ダ一層綿密ニ修正スルヲ異レリトス然レドモ戰況之レヲ要シ或ハ地形之ヲ許ストキハ素ヨリ單簡ナル方法ヲ採用スルハ方向面決定ノ要訣ナリトス。

1 一般解法

最モ多クノ場合ニ適用セララルル方法ニシテ方向面決定ノ正規解法トモ謂フベキモノナリ。野砲兵ノ集合照準法ニ於テ講話セラレタルガ如ク反規法ヲ應用スルモノニシテナル差角間隔修正量ト云フノ決定法ハ重砲兵ニ



於テハ特ニ綿密ニ行フ是レABノ距離ガ野砲ニ比シ大ナルトA、Bノ關係位置ガ甚シク不正ニシテ目測ヲ以テ決定シ難ケレバナリ故ニ通常ABヲ器測シ射距離BCハ地圖器測、目測等ニ依リ決定シAB、AC、 $\angle a$ ナル三元ヲ知りテ $\angle \gamma$ ナル一元ヲ求ムルニハ正弦比例計算尺ニ依リ $\angle \gamma$ ヲ求ム $a\gamma$ ハ基準砲車ノ決定分畫ナリ。尙ホ放列ニテ明瞭ナル假標Eト觀測所Aトノナス角 $\angle \delta$ ヲ測定シ前ノ基準砲車ノ決定分畫ニ加減シテ最後ノ決定分畫トナス然ルトキハ基準砲車ハ此分畫ヲ裝定シ假標Eヲ照準セバ射線ハ目標ニ通ズベシ是レ重砲兵ノ觀測所ハ照準ノ爲メ不便ニシテ且ツ誤差多キト砲車隊ノ勞ヲ減センガ爲メナリ。爾他ノ砲車ハ假標ノ位置及距離ト砲車間隔トニ依ル射線ノ分散集合量ヲ加減シ假標Eヲ照準セシム。

2 應急決定

戰況之ヲ要スルトキハ反規法ニ依ル分畫ヲ決定シ間隔修正量ハ目測ニ依リ決定スルヲ得ベシ又地形及狀況有利ナルトキハ左ノ諸法ニ依リテ容易ニ決定シ得。A 放列ノ前後ヨリ目標ヲ見得ルトキハ野砲ノ如ク標桿植立法ニ依ル(標準鏡ハ

之ヲ有セス。

B 目標附近ニ在ル著名ナル假標點、放列ヨリ認識シ得ルトキモ野砲ニ同ジ。

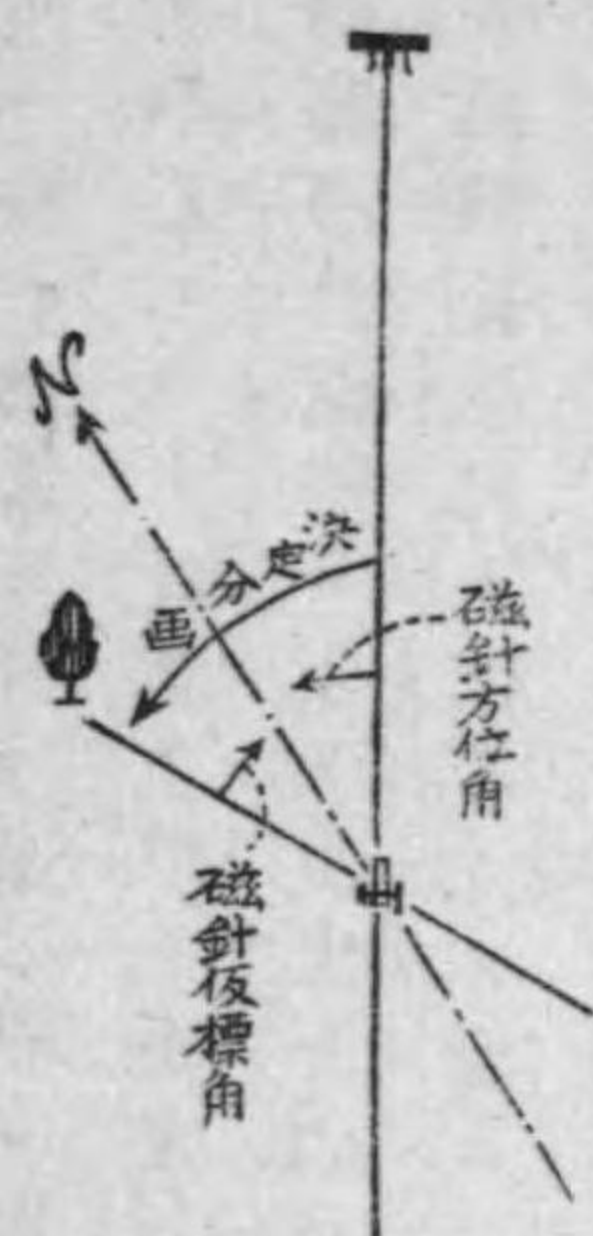
C 放列ノ延線上ヨリ目標及假標ヲ見得ベク此假標カ各砲車ヨリ見得ベキトキモ單簡ニ決定シ得ベシ。

D 良好ナル地圖ヲ有スルトキハ磁針儀ニ依リ頗ル單簡ニ決定シ得。

此方法ハ獨逸重砲兵ノ專用セル所ニシテ砲車位置ニ「ブーソル」ヲ整置シ著名ナル假標點ニ對スル磁針角ヲ測定ス之レヲ磁針假標角ト稱ス。

次ニ放列ニ無關係ナル觀測所ニ於テ目標ヲ探求シ是ヲ圖上ニ記入シ放列ト目標トヲ通ズル線ト磁北トノナス角、即チ磁針方位角ヲ透明方向分畫紙ニ依リ測定シ此角ト磁針假標角トヲ加減シタルモノヲ以テ決定分畫トシ假標ヲ照準スレバ可ナリ。

此方法ハ頗ル單簡ニシテ獨逸ノ如キハ一名ノ觀測手ニ簡便ナル磁針儀ヲ携帯セシ



可ナリ。

ムルノミニシテ他ニ觀測手ヲ有セサルガ如シ。

我國ニ於テモ單簡ナル磁針儀ノ備アルモ將來ノ戰場ニ於テ此法ヲ許スヤ否ヤハ問題ナレバーノ應用法ト見做サレアリ。

3 困難ナル地形ニ於ケル決定法

觀測所ノ要件ノ一トシテ放列ヲ通視シ得ルハ必要ノ件ナリ然レドモ運動性ニ於テ若干ノ缺陷ヲ有セル重砲兵ハ放列ヲ先決セラルルコト多ク從テ觀測所ヨリ放列ヲ通視シ得ザルコトアリ此時ハ一般解法ヲ用フルコト能ハズ故ニ概ネ左ノ法ニ依リ尙ホ方向面ノ決定ヲナシ得ルモ一般解法ニ比シ時間ヲ要スルヤ勿論ナリ。

A 二重解法

此法ハ觀測所及放列ヲ通視シ得ル地點ニ中間觀測所ヲ設ケ一般解法ヲ中間觀測所及本觀測所ニ於テ二回行フモノニシテ觀測挺進班ノ人員ノミニ依リテ實施シ得ベシ。

要スレバ同理ニ由リ三重解法、四重解法ヲモ實施シ得ルモ是レ素ヨリ望ム所ニアラズ。

B 測。板。ニ。依。ル。法。

地形蔭蔽錯雜セル時ハ寧ロ測板ヲ用フルヲ便トス其ノ方法ハ測圖法ト異ルコトナク測板上ニ目標ノ方向、放列、觀測點ヲ道線法ノ如ク圖示シ透明分畫紙ニ依リテ決定分畫ヲ求ムルニ在リ。

之ヲ要スルニ重砲兵ハ如何ナル地形ニ於テモ方向面ヲ決定シ得ベク又時トシテ應急決定ヲ採用シ單簡ニ操作シ得ベキモ一般解法ハ最モ多クノ場合ニ適合シ特ニ應急決定法ヲ用ヒ得ルカ如キ地形ニ在リテハ迅速ニ決定シ得ラルルヲ以テ兵卒ハ常ニ一般解法ヲ演練習熟シ狀況ニ應シ單簡ナル方法ヲ採用スルハ一ニ觀測小隊長ノ判斷力ニ待ツコトトセリ。

四 觀測小隊ノ動作

1 射擊準備

今一例ヲ以テ重砲兵中隊ノ觀測小隊ニ就キ説明セン。

彼我ノ前衛ハ既ニ遭遇シ前方ニ招致セラレタル重砲兵中隊長ハ觀測小隊長及同挺進班竝ニ所要ノ傳令ヲ率ヒテ先行シ今ヤ陣地及觀測所ノ配當ヲ受ケ觀測小隊

長ニ陣地設備ニ關スル意圖ヲ與ヘテ觀測所ニ到リ敵情及射擊ノ爲メノ諸偵察ヲナス以下此ノ觀測小隊ノ動作ヲ述ブベシ。

觀測小隊長ハ陣地細部ノ偵察ヲナシタル後左ノ件ヲ命令ス。

必要ナル狀況、中隊ノ首線

觀測所ノ位置

基準砲車ノ位置、放列線ノ方向、砲車間隔、假標

放列ノ通信所ノ位置及觀砲通信網ノ延線方向

是ニ於テ一部ハ放列ニ止マリ一部ハ觀測所ニ到ル。小隊長ハ先ヅ放列ノ動作ヲ監視シ後、觀測所ニ到リ中隊ノ標點ヲ示シテ此點ニ方向面ノ決定ヲナサシム各觀測通信手ノ操作左圖ノ如シ。

即チ放列ニハ二名ノ觀測手残り一名ハ砲車位置ヲ標示シ他ノ一名ハ假標角ヲ

測定シ分火集中量ヲ決定シタル後觀測所ニ到ル。

又觀測手一名ハ直ニ觀測所ニ到リ平行分畫ノ測定ヲナス。

通信手ハ一名ニテ電線架設ヲナシ他ノ二名ハ取敢ヘズ手旗ニ依リ觀測動作ヲ

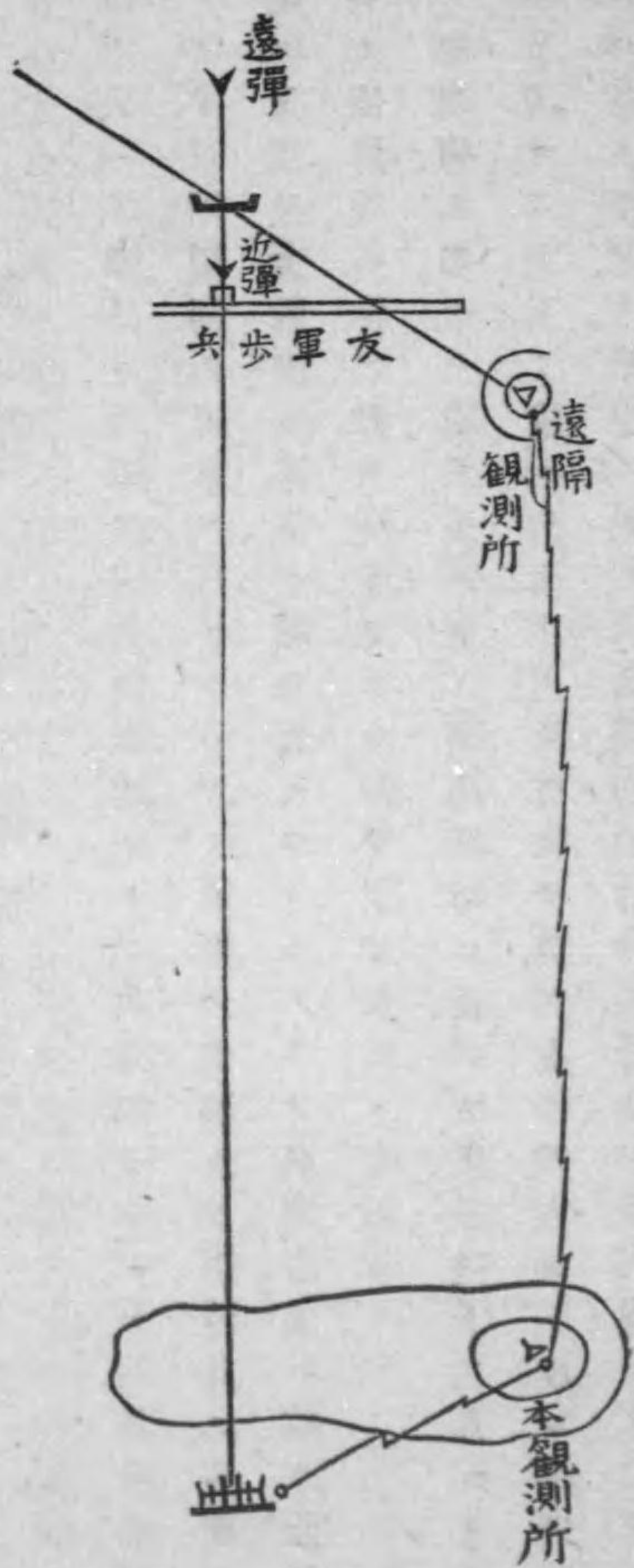
是等ノ射撃法ハ野砲兵ノモノト大同小異ナレバ茲ニ省略ス。
 唯ダ陣地變換ノ困難ナル重砲兵ガ戰鬪ノ終期ニ於テ歩兵ト密接ナル連繫ヲ取ル
 爲メノ處置ニ就キ左ニ略述セントス。
 中隊陣地進入ヲ終リ第一次ノ目標ニ對シ射撃ヲ開始スルヤ觀測小隊ハ射撃號令
 ノ傳達ニ任ズル通信手以外ノモノハ概ネ閑散トナル故ニ中隊長ハ觀測小隊長ニ
 觀測手及通信手若干ヲ附シ電線ヲ架設シツツ歩兵ノ前進ニ隨行シ中隊ノ射撃觀
 測及彼我ノ狀況報告ヲナサシム。
 而シテ彼我ノ歩兵漸次近接スルカ若クハ敵陣地ノ某一點ヲ破壞スルヲ要スルガ
 如キ場合ニハ此前進セル觀測所ニ於テ射撃指揮ヲ爲ササルベカラザルニ至ル。
 此際ニ於ケル射撃ハ所謂遠隔觀測所射撃ト稱スルモノニシテ射彈ノ遠近ハ左右
 ニ觀測セラレ左右ノ修正ハ適當ナル比例ヲ求メテ號令ス。
 然ルニ此左右修正ハ遠隔觀測所ノ側方ニ偏スル度ニ依リ種々ニ變化スベキヲ以
 テ計算ニ據ルトキハ繁雜ナレドモ實際ハ目標ニ近接セルヲ以テ其ノ修正量ノ決
 定容易ナルモノトス。

第七編 工兵ノ戰術的用法

第一章 編制及裝備

第一節 中 隊

中隊ハ中隊長ヲ核心トシテ鞏固ナル團結ヲ維持シ戰鬪單位ナルト同時ニ亦作業



ノ單位ナリ。

下士以下ノ裝備ハ携帶彈藥數及器具ヲ異ニスルノ外、全ク歩兵ニ同ジ。

第二節 大隊

大隊ハ本部ニ所要ノ行李ヲ有ス。

第三節 列強ノ編制

野戰工兵ハ各國共ニ大隊ヲ以テ最高團結トシ(攻城部隊トシテハ聯隊編制ヲ成スモノアリ)軍團編制ノ國軍ニ在リテハ之ヲ軍團ノ直屬トシ戰時其ノ一部ヲ師團ニ配屬ス又工兵大隊内ニ電信中隊ヲ編入スルモノアリ(露國)吾人ハ將來此僅少ナル工兵ノ使用法ニ就テ大ニ研究セザルベカラズ。

其ノ他列強ノ多クハ騎工兵ヲ有ス(騎兵師團ニ獨ハ技術兵三十二人ヨリ成ル一隊ヲ佛ハ五十二人ヨリ成ル自轉車工兵支隊ヲ英ハ七十四人ヨリ成ル乘馬工兵四隊ヲ屬ス)蓋シ現今ノ戰爭ニ於テ騎兵戰略的行動ノ緊要ナルハ曩ニ述ベタル所ニシ

テ而カモ此動作ノ主眼タル鐵道倉庫其ノ他重要ナル術工物ノ根本的破壊ノ爲メニハ特別ナル技術ヲ要スルヲ以テナリ而シテ騎工兵ノ建設ニ關シテハ騎兵ノ一部ニ特別教育ヲ爲サントスルモノト工兵ニ馬術ヲ練習セシメテ其ノ目的ヲ達セントスルモノトノ二様ノ意見アリト雖モ平時教育ノ關係等ヨリシテ一般ノ輿論ハ後者ヲ以テ有利ト認ムルガ如シ。

第二章 隊形

工兵中隊及大隊ノ隊形ハ中隊ニ在リテハ橫隊ヲ、大隊ニ在リテハ重複縱隊ヲ缺クノ外總テ歩兵ニ同ジ此二隊形ハ工兵ノ爲メニハ戰場ニ於ケル用途甚ダ少ナキヲ以テ制式ヲ單簡ナラシメンガ爲メ廢止セラル。

第三章 戰鬪及作業ノ原則

第一節 一般ノ要領

其一 工兵ノ任務

工兵ノ主要ナル任務ハ敵前ニ於テ整正且ツ迅速ニ技術的作業ヲ實施シ以テ軍隊ノ指揮及戰鬥ノ進捗ヲ容易ナラシムルニ在リ我ガ典範ハ日露戰役ノ經驗ニ鑑ミ步兵及砲兵ニ自ラ所要ノ工事ヲ行フベキコトヲ要求ス從テ工兵使用ノ根本義ハ他兵種ノ作業ヲ援助スルニアラズシテ獨立シテ專ラ特殊ノ技術又ハ著大ナル土工力ヲ要スル作業ヲ實施セシムルニ在リ而シテ狀況ニ依リ他隊ノ作業ヲ指導スル場合ニ在リテハ工兵ハ通常該隊ニ配屬セラレ作業ニ關スル全責任ハ當該部隊長ノ負フ所トシ又他隊ノ作業ヲ援助スル場合ニ在リテハ其ノ隸屬關係ノ如何ニ係ラズ工兵ハ成ルベク建制ヲ保持シ其ノ特殊ノ技能ヲ要スル作業ヲ擔任スベキモノトス若シ此根本義ヲ誤マリ往々見ルガ如ク工兵ヲ漫然他兵種中ニ混淆シテ何等區別スル所ナク他兵種ノ獨立心ト熱心トヲ毀損シ工兵モ亦其ノ特有ノ能力ヲ發揮スルノ餘地ナクシテ徒ラニ嫌厭ノ念ニ驅ラレ其ノ結果互ニ相讓リテ遂ニ作業ノ進捗ヲ害シ重要ナル工事ヲ完備スル能ハザルニ至ルベシ。

現時ノ戰爭殊ニ吾人將來ノ作戰地ニ於テハ戰鬥間ハ勿論行軍及駐軍間ニ於テモ

工兵ニ要求スル技術的任務ハ頗ル廣大ナルヲ以テ軍隊指揮官ハ常ニ之ガ部署ヲ適切ニシ且ツ不急不當ノ使用ヲ戒シムルト同時ニ最モ緊要ナル時機ト場所トニ於テハ毫モ愛惜スルコトナク其ノ能力ヲ發揮セシメザルベカラズ彼ノ砲兵ノ陣地進入ヲ援助シタル後續イテ是ガ掩護ニ任ジ徒ラニ是ヲ一地ニ膠著セシムルガ如キ或ハ緊要ナル作業ヲ措テ之ヲ歩兵的ニ使用シ若クハ漫然之ヲ後方ニ控置スルガ如キハ抑々工兵ノ任務ヲ誤解セルモノトス。

一 千八百七十年八月六日ウオルト附近ノ會戰ニ於テ普軍工兵ハ其ノ必要ナル地點ザウエル河ニ使用セラレスシテ漫然歩兵的ニ使用セラレ又八月十八日クラベロット附近ノ會戰ニ於テハ普軍ハ其ノ攻撃地帯内ニ於ケルマース河畔ノ叢林及クラベロット―サン、ウーベル道兩側地區ニ於テ攻撃部隊ニ必要ナルベキ縱隊路ヲ開設セシムルコトナク有爲ノ工兵ヲシテ後方ニ控置セシメタリ。

時トシテ工兵ハ歩兵ト等シク小銃ヲ以テ戰鬥ヲ遂行セザルベカラザルコトアリト雖モ是レ狀況眞ニ已ムヲ得ザル場合ニ限ルモノニシテ今其ノ二三ノ場合ヲ例示セバ左ノ如シ而シテ此ノ場合ニ於ケル戰鬥法ハ全ク歩兵ト異ナル所ナシ。

- 一 作業中不意ノ敵襲ヲ受ケ自ラ是ニ應ゼザルベカラザル時。
 - 二 砲兵敵ノ急襲ヲ受クルガ如キ場合ニ於テ一般配備ノ關係上之レニ屬スルカ若クハ其ノ附近ニ在ル工兵之ヲ掩護セザルヘカラザル時(三十七年七月二十四日大石橋附近ノ戦闘ニ於テ第二軍ノ左翼三家子附近ニ於ケル工兵第四大隊ノ如シ)。
 - 三 警戒隊又ハ支隊等不意ニ優勢ナル敵ト遭遇スルカ若クハ優勢ナル敵ノ攻撃ヲ受クルニ方リ之ニ屬スル工兵ガ作業ヨリモ火力ヲ以テ戦闘ニ參與スルノ緊要ナル時(三十八年一月黑溝臺附近ノ會戰中啞叭臺ニ於ケル工兵ノ如シ)。
 - 四 豫備隊ニ在ル工兵ガ歩兵ト共ニ最後ノ決戦ニ參與スル時。
- 其二 統一使用。
- 工兵ハ統一指揮ノ下ニ使用セララルルヲ有利トス是レ工兵指揮官自ラ適當ニ全隊ヲ部署シ且ツ確實ニ全般ノ作業ヲ統轄スルヲ得レバナリ(操典第二部第二)由來工兵ハ其ノ數ノ少ナキニモ拘ラズ使用ノ範圍頗ル廣大ナルヲ以テ動モスレバ之ヲ小ナル部隊ニ分割シテ他隊ニ配屬スルノ弊アルノミナラズ甚ダシキハ之ヲ以テ

原則ナルガ如ク思惟スルモノアリ然レドモ此ノ如キハ徒ラニ工兵ノ使用ヲ局限シ其ノ全能力ヲ遺憾ナク使用スル能ハザルノミナラズ戰況ノ推移ニ伴ヒ更ニ重要ナル作業ヲ要スルニ方リ一旦分屬セル工兵ヲ糾合シテ適時之ニ從事セシムルコト難ク爲メニ戰局ノ進捗ニ不利ノ影響ヲ受クルコトナシトセズ但シ工兵ノ爲スベキ作業ハ屢々廣大ナル地域ニ亘リ而カモ其ノ作業ハ當該方面他兵種ノ行動ト一致調和セザルベカラザルガ故ニ戰況、地形及作業地域ノ關係ニ依リ工兵ヲ分割シテ他隊ニ分屬スルノ必要ナルコト亦尠カラズト雖モ此ノ分屬タルヤ必要已ムヲ得ザル時機ニ至リ始メテ行フベキモノニシテ其ノ他ハ一地ニ集團スルト數地點ニ分レテ作業スルトニ拘ラズ常ニ工兵指揮官之ヲ統一シ狀況ト作業ノ種類トニ應ジテ終始適當ニ部署シ以テ全作業ヲ最モ有利ニ進捗セシムルヲ要ス。

他隊ニ分屬セラレタル工兵ハ其ノ必要終レバ速ニ工兵指揮官ノ隸下ニ復歸セシムベキコトハ操典ノ要求スル所ナリト雖モ臆ヲ得テ獨ヲ望ミ又部下ニ一兵モ多カラシコトヲ望ムハ人情ノ然ラシムル所ナルヲ以テ高級指揮官及工兵ヲ配屬セラレタル各級指揮官ハ深ク此ノ點ニ留意セザルベカラズ。

何レノ場合ニ於テモ工兵ハ其ノ作業實施ニ先ダテ偵察、計畫、器材ノ配當等、諸般ノ準備ヲ要シ時トシテハ遠隔セル地點ニ至リ作業セザルベカラザルヲ以テ高級指揮官ハ成ルベク速ニ戰鬪一般ニ關スル決心若クハ意圖ヲ工兵指揮官ニ通告シ豫メ準備ノ餘裕ヲ與フルノミナラズ常ニ工兵ノ現狀ヲ知悉シ以テ其ノ使用ノ時機ト方法トヲ誤マラザランコトヲ要ス(日露戰役中、敵陣地ヲ突撃スルニ方リ突撃隊ニ工兵ヲ配屬セシモ其ノ發令ノ遅カリシト、工兵ノ所在地遠隔セシトニ依リ歩兵ハ工兵ノ到着ヲ待ツコトナク或ハ然ラザルモ歩兵ノ協同動作ニ關シ豫メ準備計畫スルノ違ナクシテ悲惨ナル突撃ヲ敢行スルノ已ムヲ得ザルニ至リシコト再三ナラズ)之ガ爲メ工兵指揮官ハ直接作業ヲ指揮セザル間ハ高級指揮官ノ許ニ在リ工兵使用上ノ顧問トナリ作業實施中ニ在リテモ終始高級指揮官ト連絡シ時々作業進捗ノ景況ヲ報告シ又要スレバ次ニ實施スベキ作業ニ關シ立案シ常ニ爾後ノ要求ニ應ジ得ル如ク準備スルヲ要ス此ノ如クシテ始メテ工兵作業ヲ一般戰況ニ適應セシムルヲ得ベシ是レ高級指揮官及工兵指揮官ノ特ニ注意セザルベカラザル所ナリトス。

其三 集團使用

狀況ニ依リ數多ノ作業ヲ同時ニ完成スルヲ要スル時ノ外、工兵ハ成ルベク之レヲ集結シ全力ヲ以テ先ツ第一ニ完成スベキ作業ニ着手シ逐次其ノ他ニ及ボスヲ要ス是レ集團使用ハ工兵ノ能力ヲ充分ニ發揮セシムル所以ニシテ之ヲ數多ノ小部隊ニ分割シ個々ノ作業ヲナサシムルニ比スレバ作業ノ効程大ニシテ全般ノ完成ヲ迅速ナラシムルヲ得レバナリ故ニ工兵指揮官ハ勿論、工兵ヲ使用スル指揮官モ亦故ナクシテ同時ニ各種ノ作業ヲ欲望スルコトナク一般ノ戰況ニ鑑ミ緊急ノ程度ヲ顧慮シ作業ノ着手順序ヲ適當ニ決定スルコト緊要ナリトス。

工兵ハ常ニ其ノ全力ヲ擧ゲテ必要ナル作業ヲ實施シ迅速ニ之ヲ完成スルコトヲ努メサルベカラズ從テ其ノ一部ヲ豫備トシテ控置スルガ如キハ唯ダ戰況ト作業ノ種類トニ依リ多大ノ損害ヲ豫期シ之ガ補充ヲ要スル時(例ヘバ突撃作業)若クハ攻撃作業等ニ際シ臨時ニ發生スル機會ヲ捕捉セントスル時等特別ノ場合ニ限ルモノトス。

第二節 攻 擊

攻撃ニ於ケル工兵ハ天然人爲ノ障碍ヲ排除シテ歩兵ノ攻撃前進殊ニ其ノ突撃ヲ容易ナラシムルヲ以テ主眼トス之ガ爲メ實施スベキ作業ハ繁多ナルモ其ノ二三ヲ例示セバ左ノ如シ。

- 一 前進運動ノ據點ヲ構成ス(例ヘバ前衛ノ占領セル要地ヲ強固ニスル如キ)
- 二 歩兵ノ展開ヲ迅速且ツ容易ナラシムル爲メ縦隊路ノ開設
- 三 砲兵ノ爲メ進入及進出路ノ構築並ニ要スレバ之ニ伴フ諸設備
- 四 第一線歩兵ト同行シ要スレバ其ノ前方ニ奮進シテ小流及斷崖等ノ通過設備
- 五 既ニ占領セル地區ヲ確保スル爲メ歩兵作業ヲ援助シ若クハ獨立シテ重要ナル支撐點ヲ構成ス
- 六 敵陣地ノ障碍物ヲ排除シ歩兵ノ突撃路ヲ開設ス(突撃作業之ガ爲メ最モ堅固ナル陣地ニ對シテハ特種ノ逼迫作業ヲナスモノトス)

七 敵陣地ヲ占領セバ直ニ之ニ所要ノ工事ヲ施シ敵ノ恢復攻撃ニ備フ

以上ハ主トシテ防備陣地ニ對スル攻撃作業ヲ示スモノナリト雖モ其ノ一乃至五ハ遭遇戦ニ於テモ亦缺クベカラザル要件ニシテ其ノ戰鬪經過ノ迅速ナルダケ夫レダケ高級指揮官ノ適切ナル部署ト工兵各級指揮官ノ敏活ナル動作ヲ要求ス故ニ高級指揮官ハ前衛ニ屬スル工兵ノ用途ニ關シ適時所要ノ指示ヲ與フルノミナラズ本隊ノ工兵ヲシテ速ニ前方ニ進出セシムルコトヲ計ラザルベカラズ遭遇戦ニ於テ工兵ノ用途ヲ疑フモノハ抑々其ノ使用法ヲ解セザルニ因ル。

攻撃實施間ニ於ケル工兵ノ作業ハ當該方面ノ部隊ト密接ノ關係ヲ有スルヲ以テ此ノ際一部ノ工兵ヲ之ニ分屬スルノ必要、屢々ナルベシト雖モ此ノ場合ニ於テモ統一使用ノ原則ニ基キ當時ノ情況ニ鑑ミテ必要ノ最小限ニ止メ殘餘ハ之ヲ集結シテ更ニ詳細ナル偵察ノ結果ニ基キ直ニ新ナル需要ニ應ジ得ル如ク準備シ在ルヲ要ス。

攻撃作業中最モ重要ニシテ且ツ最モ困難ナルハ突撃作業ナリトス而シテ之ガ成効ノ要訣ハ歩、工兵ノ適切ナル協同動作ニ在リ故ニ其ノ隸屬關係ノ如何ニ拘ラズ

當該方面ノ指揮官ト工兵指揮官トハ豫メ充分ナル協議ヲ遂グ作業實施ノ手段方法ヲ劃策シ歩兵ノ適切ナル支援ニ依リ工兵ヲシテ他ヲ顧ミルコトナク一意専心作業ニ從事セシメ縦ヒ作業失敗スル時ニ於テモ歩兵ノ收容ニ依リ近距離ニ蹈ミ止マリ再舉ノ機ヲ得セシムル如クセザルベカズ。

第三節 防禦

防禦ニ在リテハ工兵ノ擔任スヘキ作業甚ダ多クハ一地ニ駐止シテ作業スルノ故ヲ以テ統一使用ノ原則ハ一層切要ナリトス。

防禦ニ於テ工兵ノ擔任スヘキ作業ヲ例示セバ左ノ如シ。

- 一 陣地中、重要ナル部分、特ニ支撐點ノ編成
- 二 各地區守備隊ノ爲スベキ工事ノ指導若クハ援助
- 三 重大ナル障碍物ノ設置及射界ノ清掃
- 四 陣地ノ内部及背後ニ於ケル交通設備
- 五 總豫備隊ノ攻勢移轉ヲ容易ナラシムベキ設備

六 前地ノ照明並ニ敵ノ近接作業ノ妨害

七 敵ノ利用スベキ道路、橋梁、其ノ他交通及通信機關ノ破壞

戰鬪既ニ開始セラルルニ至ルモ工兵ハ既設工事ノ完備、其ノ他戰鬪ノ進捗ニ應シ逐次ニ必要ナル諸種ノ作業ニ使用セラルベキモノトス若シ他ニ使用スベキ必要ナクシテ總豫備隊ニ控置セラレタル工兵ハ豫備隊ノ攻勢移轉ニ際シテ攻撃ノ原則ニ準ジ使用セラルベキモノトス。

第四節 追撃及退却

追撃ニ於ケル工兵ハ速ニ當路ノ障碍ヲ排除シテ追撃隊、殊ニ砲兵ノ行動ヲ迅速自由ナラシムルノミナラズ成シ得レバ其ノ一部ヲ以テ敵ノ背後ニ進出シ退路上ニ障碍ヲ設置シテ敵ノ行動ヲ阻害スルコトヲ努ムベシ若シ騎工兵ヲ有スルニ於テハ此ノ際偉効ヲ奏スルヲ得ベシ總テ此等ノ作業ハ最モ迅速ヲ要スルヲ以テ高級指揮官ハ時機ヲ失セズ工兵指揮官ニ意圖ヲ示シテ之ガ準備ヲ爲サシメ工兵指揮官ハ單ニ眼前ノ狀況ニ着眼スルヲ以テ足レリトセズ一般ノ狀況ト地形トヲ判斷

シ豫メ障碍ヲ排除若クハ設置スベキ地點及其ノ方法等ヲ考慮シ所要ノ準備ヲナサザルベカラズ。

退却ニ際シ工兵ハ或ハ收容陣地ヲ構成シ或ハ障碍ヲ設置シ又ハ我軍ノ退路ヲ補修シ若クハ新ニ占領スベキ陣地ノ構築ニ任ズル等其ノ任務多大ニシテ而カモ急速ヲ要ス故ニ工兵指揮官ハ退却ニ關スル高級指揮官ノ一般命令ヲ待ツコトナク

高級指揮官ノ意圖ヲ察知セバ其ノ認可ヲ受ケ速ニ之ニ着手スルヲ要ス。退却ニ在リテハ各縱隊ニ工兵ヲ分屬スルノ必要ナルコトアリト雖モ若シ新ニ陣地ノ占領ヲ豫期スル場合ニ在リテハ各縱隊ノ工兵ヲ適時工兵指揮官ノ隸下ニ復歸セシムルコトニ關シ特ニ考慮ヲ要ス。

敵ノ追撃路上ニ於ケル障碍ノ設置ハ偉大ノ効果ヲ奏ス然レドモ此種障碍ハ單ニ我軍ノ退却路上ノミナラズ廣ク側方ノ道路上ニモ亦之ヲ設置シ尙ホ若干ノ騎兵又ハ歩兵ヲ以テ之ヲ監視セシムルヲ可トス千八百七十年八月十三日佛軍ノメツツニ遁入スルヤ其ノ上流ニ於ケルモーゼル河ノ諸渡河點ヲ放棄セルガ爲メ獨軍ノ迂回追撃ヲ容易ナラシメ佛軍敗滅ノ因ヲナセリ而シテ此等ノ障碍ノ設置ハ比

較的多クノ時間ト努力トヲ要スルヲ以テ後衛ノ最後尾ニ在ル僅少ノ工兵ヲシテ急遽之ヲ實施セシムルガ如キハ其ノ機ヲ失スルノ虞レナシトセズ。

第八編 交通兵ノ戰術的用法

第一章 總 說

交通兵ハ特殊部隊ニシテ鐵道隊、電話隊、電信隊、航空隊、野戰電燈隊及自働車隊等ヲ總稱ス。

交通部隊ノ多クハ各國共ニ今尙ホ研究ノ過渡時代ニシテ其ノ編制ノ如キモ確乎タル實驗又ハ學理ニ基ケルニアラズシテ朝令暮改ノ觀ヲ呈シ其ノ戰術的用法ニ就テモ未ダ充分ニ解決セラレザルモノアリ。

交通兵ニ關スル編制、裝備及能力等ハ參謀要務及交通學ノ範圍ニ屬スルヲ以テ予ノ擔任スル戰術講授ニハ之ヲ省略シ要スレバ諸官ノ質問ニ答フルニ止メ主トシテ戰術的用法ニ關シ口演セントス。

第二章 鐵道隊

鐵道隊ハ戰地ニ於ケル輕便及普通鐵道ノ建築並ニ其ノ運轉業務ニ任ズルモノニシテ機ヲ失セズ適當ニ鐵道隊ヲ運用スルト否トハ會戰ノ勝敗ニ大ナル關係ヲ有スルコトアルモノトス。
我國ニ在リテハ旅團ヲ以テ最高單位トス。

第三章 電話隊

電話隊ハ駐軍間ニ使用セラル、コトアルモ其ノ本義ハ戰鬪間ノ用ニ供スルニ在リ故ニ其ノ濫用ヲ戒シメ又戰鬪ヲ豫期スル前進ニ在リテハ其ノ行軍位置ヲ適當ナラシムヘシ次デ之ヲ使用スルニ方リテハ電話隊長ヲシテ常ニ一般ノ狀況ト爾後ニ於ケル高級指揮官ノ意圖トヲ知悉セシメ以テ適切ナル準備ニ依リ機ヲ失セズ所望ノ通信網ヲ構成シ得ル如クスルコト緊要ナリ。

第四章 野戰電信隊

野戰電信隊ハ軍若クハ獨立師團ノ作戰地境內ニ於テ主トシテ軍司令部ト軍直屬團隊並ニ比隣軍司令部トノ通信連絡ニ任シ其ノ後方ハ軍兵站電信隊ニ依リ接續セラル通信所ハ僅ニ四名ノ配達手ヲ有スルニ過ギサルヲ以テ各部隊ハ附近ニ通信所ノ存在スルヲ知ラバ速ニ之ト連絡ヲ取ルヲ要ス。

第五章 無線電信隊

第一節 編制

各軍司令部及騎兵集團ニハ必要ニ應シ無線電信小隊ヲ配屬ス。
外國ニ在リテハ繫駕式ノ外自働車式(佛塊)及馱載式ニ編制スルモノアリ自働車式ハ通常一通信所用器材ヲ一自働車ニ又馱載式ハ一通信所用器材ヲ通常馱馬四頭ニ積載ス然レトモ馱載式ハ小距離通信ノ器材ニ適スルノミ各國共馱載式ヲ有スルモ之ガ實用ニ適スルヤ否ヤハ明カナラス。

第二節 能力

其一 運動性

本邦無線電信隊ノ運動性ハ略ボ野砲ニ同シ。

其二 通信距離

通信距離ハ發電機其者ヲ除外セバ天候時刻地形及電柱高ニ依リ差異アリ。

空中電氣ノ感受ニ基ク障礙ハ近時大ニ減却セラレ風雨霧等ハ大ナル影響ヲ及ボ

サズ海面ハ陸地ニ比シ通信距離約三倍ニ増加シ夜間ハ更ニ其二三倍ニ達ス陸地

ニ在テハ夜間ト雖モ甚シキ増加ナシ森林ハ著シク通信距離ヲ減縮シ山地ニ在テ

ハ平地ノ約二分ノ一ニ減ス電柱高ハ大ナル關係ヲ有シ例ヘハ二十五米ノ者ハ十

八米ノ者ニ比シ約一倍半ニ四十五米ノ者ハ二十五米ノ者ニ比シ約二倍ニ増加ス。

其三 通信所ノ開閉ニ要スル時間

晝間ノ建設ニ約一時間撤收ニ約四十分ヲ要スルモノヲ以テ標準トセバ可ナルベシ。

其四 通信速度

第三節 用法

音響通信法ニシテ一分間約三十字トス(埃國ニテ採用セントスル「ブールゼン」式ハ電氣寫真現字機ヲ用ヒ最速度ノ通信ヲ爲シ又電話通信ヲ爲スヲ得)。

軍事上ニ於ケル無線電信ノ應用ハ日尙ホ淺ク(一九〇四年獨逸ガ亞弗利加遠征軍ニ使用セルヲ嚆矢トシ日露戰役ノ末期ニ露軍ハ無線電信二隊ヲ派遣セシモ技術不十分ナリシ爲メ有利ニ使用スルコト能ハザリキ)加フルニ其ノ科學的能力ハ尙ホ進歩シツ、在ルヲ以テ野戰ニ於テ如何ナル程度マデ之ヲ應用シ得ルヤハ未決問題ナリトス、現時ノ程度ニ在リテハ近距離内ニ數個ノ通信所ヲ設置スル能ハザルコト、通信ヲ敵ニ窃取セラル、コト、敵ノ電波ニ依リ通信ヲ妨害セラル、コト、通信速度ノ小ナルコト等數多ノ不利アルガ故ニ之ヲ以テ有線電信、電話ニ代ヘ軍ノ主通信機關ト爲スコト能ハズシテ一ノ補助機關タルニ過ギズト雖モ僅少ナル人員及器材ヲ以テ短時間ニ遠大地域ニ亘ル通信脈ヲ構成シ得ルハ其ノ主利トスル所ナルヲ以テ主トシテ有線電信ヲ使用シ得ザル場所ト時機トニ於テ應用セラ

ルベク而カモ其ノ通信所ノ數ハ相互ノ混信ヲ規正シ得ル程度ニ制限セラルベキ
モノトス從テ野戰ニ於ケル用途ハ概ネ左ノ如クナルベシ。

- 一 軍ノ前方ニ在ル騎兵團ト軍トノ連絡。
- 二 軍司令部相互間及軍司令部ト總軍司令部間ノ通信。
- 三 遠隔セル兩作戰軍ノ連絡。

若シ夫レ師團司令部ニ至ルマデ無線電信通信所ヲ配屬セントスルガ如キハ目下
ノ程度ニ於テハ混信ノ關係上之ヲ許サザルノミナラズ此ノ如キ近距離ニ在リテ
ハ有線電信ノミヲ以テ充分ナリトス。

軍若シ無線電信ニ通信所ヲ有スル時ハ其ノ前進ニ方リ一通信所ハ在來ノ地ニ駐
マリテ依然通信ニ任シ他ノ一通信所ハ軍司令部ト共ニ前進シ交互躍進セシム若
シ軍ニ一通信所ヲ有スル時ニ在リテモ頻繁ナル通信所ノ移動ハ通信ヲ中絶セザ
ルベカラザルヲ以テ某程度迄ハ之ヲ固定シ置キ是ト軍司令部間ハ他ノ通信法ニ
依リ連絡スルヲ可トス。

無線電信通信所ハ山麓ト相當ニ離隔シ在ルヲ要シ又平坦ニシテ且ツ廣キ地積(約

百五十米平方)ヲ要スルヲ以テ遠ニ高地上等ニ設置スルヲ得ズ從テ軍司令部ノ位
置ト通信所ノ位置ト一致セサルコトアルベク然ル時ハ此兩地點間ハ他ノ通信法
ニ依リ迅速且ツ確實ナル連絡ヲ保持スルヲ要ス。

近距離内ニ數個ノ通信所ヲ設置スル時ハ其ノ一個ヲ主導通信所トシ以テ各通信
所ノ通信ヲ規定スルノ必要ヲ生ズ。

敵ニ通信ヲ竊取セラル、コトハ往々免ルベカラザル所ニシテ技術上ニ於テハ時
々波長ヲ變更シテ之ヲ豫防シ得ベシト雖モ寧ロ暗號ヲ用ユルノ優レルニ如カズ。

第六章 航空隊

(校正者曰ク現今ノ航空機ノ進歩ヲ當時ノ講義ニ比シテ研究スレハ蓋シ隔世ノ感アラシク故ニ却テ原文ノ儘々之ヲ掲グル事トセリ)

第一節 編制

航空隊トハ氣球隊及飛行隊ノ合稱ナリ、各國ニ於ケル編制及稱呼ハ一様ナラザル
モ戰時少ナクモ各軍ニ各其ノ一隊ヲ附屬スルノ計畫中ナルガ如ク又近時誘導氣
球及飛行機ノ發達シツ、在ルニ拘ラズ繫留氣球ハ未ダ全然放棄セラル、ニ至ラ
ザルガ如シ。

飛行隊ハ自働車式ニシテ通常飛行機一個並ニ若干ノ人員ヲ自働車一輛ニテ運搬シ燃料修理材料其ノ他ノ補充諸品ハ之ヲ二段列ニ區分ス。

第二節 能力

其一 總說

繫留氣球ハ風ノ爲メ使用ヲ制限セラル、コト大ナリ、其ノ最大昇騰高ハ六百乃至千米ニシテ其ノ視界ハ最モ良好ナル場合ニ於テハ十五吉米ニ達スルコト在ルモ通常約七吉米トス。

誘導氣球ト飛行隊トハ其ノ特性ヲ異ニシ從テ其ノ用途ニ於テモ亦異ナル所アルベシト雖モ軍事上其ノ對照價値ハ左ノ如シ。

誘導氣球ノ利

- 一 航續時間大ニシテ從テ活動半徑大ナリ。
- 二 搭載荷量大ナリ。
- 三 昇騰速度大ナリ(誘導氣球ノ非常昇高ハ一分間六百呎ニ達スルモ飛行機ニ在リテハ一分間三百呎ニ過ギズ)。

四 飛行比較的安定ニシテ且ツ空中ニ靜止スルコトヲ得。
誘導氣球ノ不利。

一 運搬困難ニシテ瓦斯補充ノ爲メ特別ノ機關ヲ要ス。

二 速度並ニ飛行高度ハ飛行機ニ劣リ又大ナル目標ヲ呈ス(氣球ハ約三十吉米ノ距離ニ於テ既ニ認識

三 價額大ナリ(誘導氣球一個ノ價ハ少クモ飛行機四十基ノ價ニ相當ス、今飛行機ノ保

四 發陸及着陸ハ飛行機ノ如ク輕易ナラズ。

航空機ハ今尙ホ日進月歩ノ状態ニ在リテ將來ニ於ケル發達ノ程度ハ豫測スル能ハズト雖モ現時ニ於ケル飛行機ノ能力ハ概ネ次ノ如シ。

其二 活動半徑

活動半徑ハ飛行速度ト航續力トニ關係ス、飛行機ノ飛行速度ハ一時間八十乃至百吉米トシ、飛行時間ノ最近レコードハ十三時間ノ久シキニ亘ルモノ在リト雖モ一般ニ一人乗ナレバ約四時間半、二人乗ナレバ約三時間トス故ニ其ノ實用活動半徑ハ約百五十吉米ヲ以テ標準トナスヲ至當トス若シ夫レ誘導氣球ニ至リテハ一時

間六七十吉米ノ速カヲ以テ十五時間續航スルヲ得
其三 飛行高度

飛行機ハ三千乃至五千米ノ高度ニ於テ飛行スルヲ得誘導氣球ハ二千米ヲ以テ普通最高度トシ重量物ヲ投棄シ非常昇高ヲナストキハ約三千米ノ高サニ達スルヲ得然レドモ飛行機上ニ於ケル眼鏡ノ使用ハ困難ニシテ視察ハ肉眼ヲ以テセザルベカラザルヲ以テ視察ノ爲メニハ通常千米ヲ以テ其ノ最高限度トシ六百乃至八百米ヲ以テ最モ適當トスルガ如シ低飛行ハ敵火ノ危害アルノミナラズ四百米以下ニ在リテハ屢々突風ノ危険ニ遭遇ス。

其四 天候ノ影響

飛行機ハ風速十二三米ノ時ニ於テモ安全ニ飛行スルヲ得歐洲ニテハ二十五米ノ風速ニ於テ飛行セルモノアリ若シ十五六米ノ風速ニ於テ飛行シ得ルニ至レバ一年中ノ大部分ハ飛行スルヲ得ベシ。

其五 視界

英國飛行家「キャツペル」大佐ノ言ニ依レハ二千呎(約六百米)ノ高度ニ於テ確實ニ目

視シ得ル地上ノ範圍ハ普通ノ天候ニ於テ飛行機ノ左右各一哩半(約二千四百米)トス。高度更ニ大ナレバ視界愈々大ナリト雖モ地上物體ノ認識困難トナル。

其六 搭載荷量

實搭載荷量ハ飛行機ニ在リテハ一人乗ノ時約二百疋、二人乗ノトキ約百疋トシ誘導氣球ニ在リテハ約二千疋トス。

其七 地上トノ通信連絡

地上トノ通信連絡ノ爲メ近時無線電信ヲ裝置セルモ飛行機上ニ在リテハ發動機ノ爆音ニ妨ゲラレ受信ハ不可能ナリ報告筒ハ五六百米ノ高所ヨリセバ地上約百米平方ノ地域内ニ投下スルヲ得。

其八 夜間飛行

市街ノ燈火等著明ノ目標アルトキハ方向ヲ誤マルコトナク飛行スルヲ得近時探照電燈ヲ裝置スルモノ在ルモ果シテ之ヲ以テ夜間ノ偵察ヲ爲シ得ルヤ否ヤハ未ダ疑問ナリトス。

其九 飛行場

飛行機ノ飛行場ハ約百五十米平方ノ幅員ヲ有スル時ハ何レノ方向ヨリモ着陸スルヲ得、田畑等ニ飛行場ヲ設備セントスルトキ地面ノ状態ハ自轉車ノ走行ニ差支ナキ程度ニテ可ナリ。

其一〇 敵彈ニ對スル危害

小銃射擊ニ在リテハ飛行機ノ距離及高度ヲ測定スルコト難ク假令之ヲ測知シ得タリトスルモ照尺ノ裝定ハ單純ナル問題ニアラス、一般ニ五六百米以上ノ高度ニ於テハ小銃射擊ノ危害ヲ受クルコトナシト唱ヘラル、又現時ノ野戰砲ヲ以テスル射擊ハ更ニ困難ナリ「ローネ」ノ如キモ航空機射擊ノ爲メニハ最大射角約80°ヲ以テ全周ニ旋回シ得ル火炮ト觀測ヲ容易ナラシムル爲メ發煙劑ヲ有スル特種ノ彈丸ヲ必要ナリト稱ス。

第三節 用法

其一 總說

飛行機ヲ如何ナル程度マテ軍用ニ供シ得ルヤハ未決問題ナリト雖モ現時ノ狀態

ヲ以テセバ其ノ用途ハ概ネ次ノ如クナルベシ。

- 一 戰略及戰術的搜索。
- 二 地上ノ軍隊及物體ニ對シ危險物ノ投下。
- 三 敵ノ航空機ニ對スル攻撃。
- 四 通信連絡勤務。

其二 搜索勤務

快速力ヲ以テ空中ヲ雄飛スル飛行機ノ現出ハ作戰ノ各期ヲ通シ騎兵ノ企圖シ能ハザル搜索任務ヲ遂行シテ軍ノ作戰ニ至大ノ便益ヲ與フルヤ必セリ然レトモ飛行機ハ故障ノ發生及天候ノ影響ヲ免ル、能ハザルノミナラズ其ノ搜索ハ細微ノ點ニ亘ルコト能ハザルヲ以テ之ヲ以テ騎兵ニ代用シ得ベカラザルハ勿論搜索勤務ニ關シ從來採用シ來リタル手段、方法ハ飛行機ノ現出ニ依リ毫モ變化ヲ來スコト勿ルベシ。

作戰ノ初期例ヘバ軍ノ集中間等彼我著シク遠隔スル時期ニ於テハ軍飛行隊ノ一部若クハ全部ヲ遠ク軍ノ前方ニ在ル騎兵團又ハ先遣部隊ニ配屬シ要スレバ之ニ

所要ノ軍參謀ヲ附屬シ搜索勤務ニ使用スルヲ有利トス然レドモ敵トノ距離飛行機ノ活動半徑以內ナルニ至レバ成ルベク之ヲ軍ノ直轄トシ統一シテ使用スルヲ可トス此ノ場合ニ於テモ空中搜索ノ結果ヲ直ニ利用シテ地上搜索ヲ完全ナラシムル爲メ飛行機ノ偵知シ得タル事項ハ前方ニ在ル騎兵團等ニ直接通報セシムルコト必要ナルベシ。

騎兵團ノ如ク絶エズ其ノ位置ヲ移動スルモノニ配屬セル飛行機ハ終始其ノ部隊ト行動ヲ共ニセシムルハ却テ不利ニシテ寧ロ少ナクモ其ノ大部ハ掩護確實ナル後方適當ノ地點ニ駐止セシメ確實ナル通信連絡ヲ保持シテ適切ニ飛行ヲ命ズル如クスルヲ可トス。

集中ノ爲メ村落市街等ニ宿營セル敵ノ兵力ヲ判斷スルハ特別ノ場合ノ外至難ニシテ多クハ集中地ノ概況ヲ偵知シ得ルニ過キズ故ニ其ノ運動開始時機ヲ利用シ其ノ進路及兵力等ヲ觀察スルコト必要ナリ之ガ爲メニハ連日絶エズ同一地ニ飛行シ其ノ行動ヲ監視セシムルヲ要ス。

軍ノ前進ニ方リテハ日々ノ前進部署ヲ適切ナラシムル爲メ前日ノ夕刻ハ勿論當

日ノ早朝一回ノ飛行偵察ヲナサシムベシ夕刻及早朝ハ軍隊ノ移動時機ナルヲ以テ偉大ノ効果ヲ得ルコトアルベシ。

軍ノ前進間飛行隊ヲ同行セシメ適時之ヲ使用セントスルハ殆ント不可能ナルヲ以テ飛行隊ハ通常躍進法ニ依リ前進セシムルヲ可トス即チ其ノ一部若クハ大部ヲ前夜ノ宿營地附近ニ設備セル飛行場ニ殘置シ前方所要ノ地點ニ速ニ飛行場ヲ設備シタル後此ノ所ニ躍進セシム殊ニ遭遇戰ヲ豫期スル前進ニ在リテハ此ノ方法ニ依リ且ツ飛行場ト軍司令官トハ常ニ電信電話等ノ確實ナル連絡ヲ保持シ又飛行場ニ所要ノ軍參謀ヲ殘置シ隨時軍司令官ノ意圖ニ基キ飛行ヲ命ズル如クスベシ其ノ他前方適當ノ地點ニ所要ノ人員ヲ派遣シ報告收集所ヲ設クルヲ可トス彼我漸ク接近シ騎兵團其ノ活動地域ヲ制限セラルルノ時期ニ至ルモ飛行機ハ依然偵察ノ廣大ナル範圍ヲ有ス而シテ陣地ノ攻撃及防禦ニ在リテハ通常時間ノ餘裕アルヲ以テ完全ニ飛行場ヲ設備シ周到ナル計畫ヲ立テテ飛行機ヲ使用スルヲ要ス即チ攻撃ニ在リテハ先ヅ敵ノ陣地線陣地ノ兩翼工事ノ種類砲兵陣地及豫備隊ノ位置等ヲ又防禦ニ在リテハ敵ノ進路兵力及位置等ヲ搜索セシメ次デ從來ノ

報告ヲ確メ或ハ不足ノ視察ヲ補足シ尙ホ戦闘間ニ在リテモ飛行ヲ中絶スルコトナク敵ノ後方部隊ノ動靜ヲ視察セシメ是ニ依リテ攻撃ノ指導ヲ適切ニシ或ハ攻勢移轉ノ好機ヲ捕捉セサルベカラズ。

戦況ノ進捗ニ伴ヒ特ニ陣地攻撃ニ在リテハ要スレバ飛行機ノ一部ヲ所要ノ師團ニ配屬シ或ハ射彈觀測ノ目的ヲ以テ之ヲ砲兵團ニ配屬スルコトアリ、飛行機ニ依ル射彈觀測ノ有効ナルコトハ昨年野戰砲兵射擊學校ニ於ケル試験射撃ニ依リテ立證セラルル所ナリ。

追撃及退却ニ在リテハ亦飛行機ノ活動ヲ要求ス即チ追撃ニ在リテハ機ヲ失セズ多數ノ飛行機ヲ放チテ敵ノ退却方向、兵力ノ部署及其ノ停止點等ヲ速ニ視察セシム此ノ際爆藥其ノ他危險物ノ投下ハ少ナクモ敵ノ志氣上ニ大ナル交感ヲ與フルヲ得ルナラン又退却ニ在リテハ敵ノ追撃部署及其ノ狀態等ヲ偵知スル爲メ有効ニ使用セラルベシ。

以上搜索機關トシテ飛行機ヲ使用スルニ方リ一般ニ必要ナル注意事項ヲ述ブレバ次ノ如シ。

- 1 飛行隊ヲ使用スルニ方リ其ノ命令ノ形式ヲ如何ニスベキヤ換言セバ使用者單ニ其ノ意圖若クハ希望ノミヲ示シ其ノ實行法ハ飛行隊長ニ一任スベキヤ或ハ各目的ニ從ヒ一々詳細事項ニ亘リ指示スベキヤハ一ニ飛行隊長ノ戰術的能力ニ對スル信賴ノ程度如何ニ依ル、時トシテ飛行隊ニ參謀ヲ派遣シ置キ逐次所要ノ指示ヲ與ヘシムルヲ可トスルコトアリ。
- 2 飛行機ハ其ノ速力ノ大ナルト、危險ノ顧慮上低飛行ヲナス能ハザルトニ依リ其ノ視察ハ細微ノ點ニ亘ルヲ得ズ故ニ飛行機ニ要求スル視察程度ハ大部隊ノ行動其ノ他、概括的ノ事項等ニ止メザルベカラズ、目下試驗中ナル寫眞術ニシテ發達セハ地形、地物等ノ詳細ニ亘リ偵知シ得ルニ至ルナラン。
- 3 重要ナル偵察ノ爲メニハ同一目的ニ對シ同時ニ二個ノ飛行機ヲ使用スルヲ可トス是レ其ノ速力ノ迅速ナルニ依リ時トシテハ見逃スコトアルト亦有り得ベキ各種ノ故障トヲ顧慮スレバナリ。
- 4 飛行偵察者ニハ出發前一般ノ狀況ヲ知悉セシムルコト必要ナリ是レ視察ヲ容易ナラシムルノミナラズ彼我兩軍接近セルトキニ在リテモ彼我ノ識別ヲ誤ル

ガ如キコトナカラシメンガ爲メナリ。

5 飛行機ニ依リテ得タル情報ヲ有効ニ利用セントセバ其ノ報告ノ到達ヲ迅速ナラシムルト同時ニ更ニ之ヲ所要ノ部隊ニ迅速ニ通告スルノ手段ヲ講ゼザルベカラズ之ガ爲メ飛行機ニ無線電信ヲ應用スルト否トニ拘ラズ常ニ指揮官ノ所在ヲ明カニシ是ト飛行場トノ連絡ヲ確實ニシ要スレバ報告集收所ヲ設ケ此ノ所ニ所要ノ參謀ヲ派遣シテ報告ヲ得ル毎ニ適宜速ニ之ヲ處理セシメ或ハ豫メ偵察者ニ其ノ直接通報スベキ部隊及其ノ場所ヲ指示ス其ノ他各隊ヲシテ飛行機ヨリ報告筒ヲ投下セルヲ發見セバ速ニ之ヲ受信者ニ傳送スルノ義務ヲ有セシメザルベカラズ。

6 單一飛行機ニ課スル任務ハ必ず單純ニシテ且ツ限定的ナルヲ要ス同時ニ數多ノ任務ヲ課シ或ハ廣範圍ニ亘リ漠然タル任務ヲ課スル(例ヘバA街道B街道及C街道方面ノ敵狀ヲ搜索スベシ……或ハ某地ニ至リ敵ヲ見ザレバ更ニ某地方ヲ搜索スヘシ)ノ如キハ多ク不成功ニ終ルモノトス然レドモ諸種ノ徵候ニ依リ敵ノ企圖ヲ判斷セザルベカラザル參謀將校ノ偵察ノ如キハ任務ノ單純ナルヲ

得ザルコトアリ此ノ場合ニ在リテモ其ノ飛行ニ先ダテ豫メ充分ノ研究ヲナシ判斷ヲ行フ爲メ視察スベキ事項ハ勉メテ單純ナラシメ置クヲ要ス。

又飛行機ハ天候等ノ關係ニ依リ命令後直ニ出發シ能ハザルコトヲ顧慮シ爲シ得ル限り豫メ之ヲ命ジ時間ノ餘裕ヲ與フルヲ要ス。

7 飛行機上ニ於ケル諸作業要圖ノ調製又ハ報告文ノ記載等ハ必ずシモ不可能ナルニアラザルモ機上ニ於ケル作業ハ豫想外ノ時間ヲ要スルノミナラズ之ガ爲メ視察ヲ中絶セザルベカラザルヲ以テ機上ニ於テ詳細ナル報告ノ調製ヲナサシムルガ如キコトヲ要求スベカラズ通常携帯セル地圖上ニ簡單ナル隊標及註記ヲ記入シ又ハ單簡ナル報告文ヲ認メ落下セシムルヲ度トセザルベカラズ。

8 飛行機視察ノ缺點ハ駐止シテ絶エズ敵狀ヲ監視シ得ザルニアリ(誘導氣球ハ此ノ點ニ於テ優ル)故ニ情況若シ不斷ノ監視ヲ要スル場合ニハ其ノ目的ト有スル飛行機ノ數トニ應ジ適當ノ間隔ヲ以テ同一地點ニ向ヒ連續飛行機ヲ放ツヲ要ス又敵ノ行動ヲ監視スル爲メ敵軍ノ頭上ニ於テ長時間環周飛翔セシムルガ如キハ危険ナルヲ以テ之ヲ避ケザルベカラズ。

9 飛行機ヨリノ視察ニ依リ敵狀ヲ判斷スルニハ部分的視察ノ結果ヲ綜合スル(甲)ト參謀將校自ラ視察シテ判斷スル(乙)トノ二様アルベシ、前述セル如ク飛行機ニ與フル任務ハ單純ナルヲ要スルヲ以テ目下ノ狀態ニテハ通常(甲)ノ方法ニ依ラザルベカラズ然ルトキハ視察ハ必ズシモ參謀將校ナルヲ要セズ然レドモ(甲)ニ依ル綜合的判斷ヲ確認シ若クハ(甲)ノ方法ヲ以テ目的ヲ達スル能ハザル場合例ヘバ一瞬ノ視察ニ依リテ敵ノ企圖ヲ判斷セントスルニハ高尙ナル用兵上ノ能力ヲ有シ且ツ全般ノ情況ヲ知悉セル參謀將校ヲ以テ之ニ任ゼザルベカラズ而シテ此ノ如キ視察ハ好機ヲ捕捉スルコト特ニ緊要ナルヲ以テ其ノ時機ヲ偵知スル爲メ要スレバ他ノ飛行者ヲシテ豫備偵察ヲナサシムルコトアリ。

其三 危險物ノ投下

飛行機ヨリスル危險物ノ投下ハ夙ニ唱導セラルル所ナルモ其ノ效果ニ關シテハ今尙ホ異論アル所ニシテ其ノ左袒者ハ其ノ價值ヲ誇大ニ吹聴シ其ノ反對者ハ一顧ノ價值ナキモノトシ共ニ稍々極端ナルガ如シ、伊土戰及バルカン戰ニ於テハ多少ノ好成績ヲ得タルガ如キモ敵ハ飛行機射撃用火器ヲ有セザリシト、空中ニ對ス

ル其ノ警戒ヲ缺キシトニ依リ飛行機ハ低飛行ヲ爲シ得タルコトヲ思ハザルベカラズ然レドモ投下物ノ命中精度ハ諸種ノ試驗ニ徴スルニ全然望ミナキニアラズ殊ニ米人スコット氏ハ精良ナル彈藥投下器ヲ發明シ其ノ成績良好ナリト云フ、然レドモ危險物投下ノ爲メニハ二人坐乗ナルヲ要シ然ルトキハ其ノ携行重量僅ニ百斤ニ過ギザルヲ以テ果シテ所望ノ效果ヲ期シ得ルヤ疑ヒナキ能ハズ、近時少數爆藥ニ代フルニ多量ノ小銃彈的金屬片ヲ投下セントスルノ說アリ、敵ノ軍隊ニ對シテハ寧ロ有利ナルナラン。

其ノ他飛行機ニ裝置セル小口徑速射砲又ハ機關銃ヲ以テ直接地上ノ軍隊ヲ攻撃セントスルノ方法モ未ダ實際的價值ヲ察知スル能ハズ。

然レドモ此等危險物ノ投下ハ縱ヒ其ノ物質的効果少ナキニセヨ敵ノ精神上ニ與フル効果ハ否認スル能ハザルヲ以テ大ナル密集部隊、倉庫其ノ他重要ナル築工物ニ對シ之ヲ應用スベキ機會亦尠シトセズ而シテ之ガ實行ハ拂曉、薄暮等ヲ利用シ敵ノ不意ニ出ヅルヲ要ス。

其四 敵ノ航空機ニ對スル攻撃

航空機ノ用途前述ノ如クナルヲ以テ彼我互ニ其ノ利用ヲ妨害セントスルハ自然ノ結果ニシテ從テ將來空中戰ノ現出ヲ豫想スルニ難カラズ而シテ其ノ交戦法ハ撞撃ニアラズシテ一ニ遠戰ニ依ラサルベカラズ茲ニ於テカ航空機ノ武裝ヲ必要トス。

空中戰ノ爲メニハ多數ノ航空機ヲ有スルノ必要ナルコト勿論ナリト雖モ卓越ナル操縦者ヲ要スルコトハ更ニ緊要ナル條件トス、空中戰ニ於テハ飛行機ハ其ノ飛行速度ニ依リテ飛行高度ノ大ナルト目標ノ小ナル點ニ於テ優リ誘導氣球ハ昇騰速度ノ大ナルト携行武器ノ豊富ナルトノ特權ヲ有ス。

其五 通信連絡勤務

遠隔セル兩地點間ノ通信連絡ハ主トシテ電信、電話等ニ依ルベシト雖モ電信、電話ハ不通ナルコト在ルノミナラズ縱ヒ確實ニ連絡シアル場合ニ在リテモ重要ナル意見ノ交換等ハ到底是ニ依リテ盡ス能ハザルヲ以テ屢々參謀其ノ他ノ連絡將校ノ差遣ヲ要シ而カモ地形其ノ他ノ關係上自働車ニ據ル能ハザルコトアリ、此ノ如キ場合ニ於テ飛行機ハ天候ノ障礙ナキ限りハ地形及敵狀ノ如何ニ拘ラズ直路目

的地ニ到達シ迅速ニ目的ヲ達スルヲ得ベシ。

第七章 野戰電燈隊

第一節 編制

(校正者曰ク我國ノ編制ハ削除ス)

露軍ハ高等司令部、砲兵隊、歩兵聯隊及工兵大隊ニ電燈隊各一隊(步兵聯隊ノモノハ駄式ヲ配屬スルノ計畫ナルガ如ク「アニヌモフ」大佐ノ著書ニ依レバ其ノ照明効力ハ左ノ如シ。

三十五瓏輕探照燈	家屋ヲ約七〇〇〇米	人ノ群集及砲ヲ一、〇〇〇米乃至一、四〇〇米。
六十瓏重探照燈	同 約九六〇〇米	一、八〇〇米乃至二、〇〇〇米 單獨兵ヲ約一、四〇〇米。
七十五瓏重探照燈	同 約一〇、五〇〇米	同 二、二〇〇米乃至二、三〇〇米。

第二節 用法

露國「ベクニヤフ」氏ノ試驗射撃ニ依レバ探照燈ニ對スル小銃射撃ノ効力ハ甚ダ少ナキガ如ク機關銃ハ熟練セバ千乃至千五百歩ノ距離ヨリ有効ナルヤノ感アリト、

又火炮ヲ以テスル射撃ノ効力ハ露國野外要務令ノ期待スル所ナルモ其ノ觀測ハ容易ナラザルベシ。
野電燈ノ戰術的用途ハ左ノ如シ。

- 一 搜索。敵ノ配備及行動ヲ發見スル目的ヲ以テ使用ス、之ガ爲メニハ固定位置ヨリ遠距離ヲ照明シ或ハ要スレバ微小ノ移動ヲナシ近距離ヲモ照明ス若シ輕電燈ヲ有スルトキハ之ヲ以テ搜索班ヲ編成ス。
- 二 夜間射撃ノ補助。夜間射撃ヲ有効ナラシムル唯一ノ手段トシテ目標ヲ照明ス。
- 三 敵ノ眩目。輝々タル光芒ニ依リ敵目ヲ眩シ視察ヲ不可能ナラシメ此時機ヲ利用シテ不意ニ敵ニ肉迫ス。
- 四 敵ノ照明ヲ妨害ス。我ガ電燈ノ光芒ヲ以テ敵ノ電燈光線ニ交叉セシメ之ニ依リテ敵ノ搜索及射撃ヲ妨害シ我軍ヲ遮蔽ス。
- 五 通信連絡。電燈ニ依ル信號ハ晝間ニ於テモ之ヲ行フヲ得、夜間天空ニ向ケタル燈光ハ二十乃至五十吉米ノ遠方ヨリ認識シ得ルガ如シ。

野戰電燈ノ使用上最モ緊要ナルハ射光機及觀測者ノ位置ノ選定ナリトス射光機ノ位置ハ掩護確實ニシテ前方ヲ廣ク照明シ得ルヲ要ス然ルニ繫駕式ナルト、電纜長ニ制限アルトハ此ノ位置ノ選定ヲ困難ナラシム。
觀測位置ハ射光機ノ前方且ツ稍々側方ニシテ豫定照明區域ノ全部ヲ通視シ得ルヲ要シ尙ホ成シ得レバ射光機ノ位置ヨリ高所ナルヲ可トス。
使用者操縦者觀測者間ニハ迅速確實ナル通信連絡ヲ保持シ在ルヲ要ス而シテ操縦ノ爲メニハ常ニ必ズシモ射光機ノ位置ニ在ルヲ要セズ、若干距離迄ハ之ト離隔シ在ルモ電纜ノ補助ニ依リ自働的ニ操縦スルヲ得。

第八章 自働車隊

現時ノ戰爭ニ於ケル自働車ノ價值ハ何人モ否認セザル所ナルベク滿洲ノ如キ地形ニ於テモ季節ニヨリ之ヲ應用シ得ルノミナラズ駭々タル技術ノ進歩ハ地形ノ障碍ヲ打破スルコト大ナルモノアルヲ豫期セザルベカラズ。
我邦ニテハ未ダ自働車隊ノ制ヲ見ルニ至ラザルモ列強諸國ハ何レモ平時其ノ基

幹隊ヲ有シ其ノ研究ニ努メツツアリ而シテ其ノ編制ニ關シ目下ノ大勢ハ之ヲ獨立隊トナスヤ或ハ鐵道隊ニ屬スルヤ(露伊)ノ二ツニ分ル。
自働車ハ戰術上左ノ目的ニ使用セララル。

一 輸送

二 交通連絡

1 自働車ヲ師團輜重ニ代用セントスルハ目下ノ狀況ニ於テ不可能ナルハ勿論ナリト雖モ必要ノ時期ニ於テ一時其ノ補助機關トシテ應用スルヲ得ベシ。
夫レ大軍ノ殲滅戰ニ在リテハ迅速ナル運動ヲ以テ敵ノ側面ニ向テスル攻撃(奉天戰ニ於ケル我が第三軍ノ如キ)ノ必要ナルニ拘ラズ其ノ行動ハ後方補給ノ不備ナルニ依リ掣肘セララルコト大ナリ此ノ時ニ方リ特別輜重トシテ自働車隊ヲ臨時配屬セハ其ノ効果大ナルヤ必セリ又軍ノ前方ニ活動スベキ騎兵團ヲシテ其ノ輜重ノ爲メ行動ヲ掣肘セラレ或ハ其ノ輜重掩護ノ爲メ兵力ヲ分割スルノ必要ナカラシムル爲メ其ノ輜重ノ一部ニ自働車ヲ編入ス其ノ他特別任務ヲ以テ急速ニ遠隔セル地ニ派遣スベキ部隊ノ輸送ニ供ス。

2 高等指揮官ノ戰場ニ於ケル移動ヲ迅速ナラシメ高等司令部相互間又ハ遠隔セル縱隊間ニ於ケル交渉ノ事項ノ爲メ參謀其ノ他ノ將校ヲ差遣シ其ノ他電信電話等ノ設ナキカ又ハ其ノ故障アル時命令及報告ノ傳達ニ使用セララル。

基本戰術講授錄 卷之下 終

大正六年四月十四日印刷
大正六年四月十七日發行

不許複製
不許翻刻

發行者

伊藤芳松

著者

井上繁

印刷所

同勞舍

東京市麴町區下六番町十七番地

東京市赤坂區表町二丁目一番地

東京市赤坂區表町二丁目一番地

◎發行所

電話芝五六〇五番
掛替貯金口座二〇九八七

兵事雜誌社

基本戰術講授錄奧付

全二冊 一冊金七十五錢
送料金八錢

戰術革命的指導書!! (好評噴々たる忽ち訂正第二版發行)
 龍川出題。研究會再評——◎第一輯より第四輯まで既刊

白紙戰術之研究

大學受験者の最も頭痛を痛ましむる者は戰術なり、是れ戰術の門が至玄至妙にして容易に其の堂奥に到り難き一因は固より指導教育方法併に講究の手段に於て未だ到らざるものなるが故に往々にして序を追ひ順に従ふ教育の大方針に合致する能はざるの結果研究者は遂に要を得ざる所以なり本社茲に觀るあ革命的新法式に依り主として智識の進歩の遅々たる兵學專門家に囑し革命的の新法式に依り主として題材を陸軍大學受験問題の欲する儘に所裁官地圖を白紙上に描畫し序を追ひ順に従ふて研究を進めたるもの即ち本書なり書を繙かば彼の所要地圖此搜索するの煩累なく其の要點急所を究むるに唯一無二の良師、良友たること疑ひを容れず實に兵學界に一新紀元を畫するものにして正さに戰術研究上の一レコードたり、苟くも戰術の問題に惱を醫せられよ、敢て江湖に薦む。

◎發行所

東京市赤坂區表町二ノ一
 振替貯金口座東京二〇九八七

兵事雜誌社

歐洲戰役の生める唯一最新最良の戰術指導書

新戰術 師團及旅團之統帥

全三冊

體裁菊判頁數約二百頁宛
 一冊金五十錢宛郵
 稅各冊四錢宛

歐洲戰役の實驗は大陸的戰爭の本色を發揮し茲に吾人に教ふるに師團及旅團の統帥に通曉するの最も痛切なる必要を以てしたり蓋し苟くも一部の指揮官たる以上、師團長、旅團長の意圖に合せんが爲めには少なくとも師團旅團の統帥法の梗概位は之を會得し置くにあらざるは焉んぞ是を能くし得んや歐洲の戰役は實に是の下級指揮官が高等指揮官の意圖に合するもの極めて切要なるを事實の上に日々夜々、實證の來の戰爭地を大陸に豫期しつゝある吾人、豈に是を閑却し本書は師團及旅團なるものを其の性質上より將た編制上より研究し後之が運用上に関する研究を想定上に試みたるものにして其の想回更らに研究會詳細綿密なる細評を加へたるも苟くも師旅團なるもの性質如何を知らんと欲するものは勿論其の戰力の發達を圖らんとする者のためには洵に必讀すべき最新最好の戰術指導書なるを疑はず

◎發行所

電話芝五六〇五番
 振替貯金口座二〇九八七番

兵事雜誌社

東京市赤坂區表町二丁目一番地

清水歩兵少佐著

戰術應用 斥候及步哨教育

全一冊

體裁四六判
正價金三十錢
送料金四錢

本書ハ實ニ日清日露並ニ日獨ノ三戰役ニ於テ幾多
忠勇義烈ノ將卒ガ親シク軀ヲ腥風血雨ノ間ニ爆ラシテ
鮮血淋漓ノ間ニ獲得セル貴重ノ賜物ヲ蒐集セルモノ
育ニ任ズル者之ヲ繙カバ其今日ニ至艱至難トスル種教育ナラサルベク又
ル因由ヲ明ラカニシテ得行ハルル至艱至難トスル種教育ナラサルベク又
タスノ種勤務ニ服スルモノニシテ是ヲ繙カバ直チニ其ノ勤務ガ至重至貴ナル所以ヲ解シ得テ自奮
自覺ノ念、油然トシテ胸裏ニ湧カン、教育者并ニ被教育者ニシテ此ノ域ニ到ラバ之ガ教育ノ效果
舉ガラザラント欲スルモ豈ニ得ベケンヤ、抑々事ノ就ルヤ就ルノ日ニ就ルニ非スシテ必ズヤ因テ
來ル所アリ。
吾人ハ「軍隊ノ事皆ナ戰闘ヲ以テ基準トナスベシ」トノ大旨ニ鑑ミ敢テ其ノ必讀ヲ江湖ニ薦ムル所
以ナリ。

◎發行所

東京市赤坂區表町二ノ一
振替貯金口座東京二〇九八七

兵事雜誌社

研究會講話

戰術原則の由來と根源全

體裁菊判説明木版
七十餘個入製本本
製金文字入
全一冊 金七十五錢
送料八錢

本書ノ非凡ノ價值アル事ハ世既ニ之ヲ知ル故ニ弊社ハ其價值ニ就キ嗚々スルヲ止メ唯ダ左ニ本書ノ
結構及内容ヲ紹介スルニ講話者ノ序ヲ以テス。
表現された用兵の原則は從來甚たしく單簡に取扱はれて居る然し此等の原則の本性を詳に知らんと欲
したなら、その産れた母體を知らねばならぬ、その母體を知り産れ具合を知りさらして後に始めてそ
の表現されて居る原則が眞に理解が出来ると謂ふものである。
さうして此の原則を眞に理解し、またその母體を知つて居ればその産れた原則の變化應用を間違ひな
からしめ得るのである。
それ故此の原則の母體と由來とを知ることは管にその原則を正當に理解し得るばかりでなくその應用
をもその變化をも正當に實施運轉し得るのである。
此理由て本講話を試みたのである序に謂ふて置くが此の講話を聴かれたら是を基として更に諸君の研
究を進め或は之を深くし又は更に諸君自身の所有物たらしめて欲しいのである。

大正三年二月

研究會講話擔當者

東京市赤坂區表町二丁目一番地

◎發行所

電話 芝五六〇五
振替貯金口座二〇九八七

兵事雜誌社

見よ看よ無くてなざる軍の指針書出ず
康坊生著

電話通信詳解全

體裁四六判用紙
泊來上等洋紙
説明本校數十個入
全一冊
金五十一錢
郵税六錢

戰鬪の勝敗は軍の活動の遲速の巧拙に關し軍の活動の遲速巧拙はその命脈の偉大なる發達にあり、命脈とは何ぞ、通信連絡是れなり是れ近時各國競ふてその通信連絡機關を精英にしその運用に巧熟する所以なり、我國が寡弱の軍隊を以て優勢なる敵に當らんと欲せば巧妙なる集散離合をなし神出鬼没をなし或は連擊協同して以て活潑々地の行動を爲さざるべからざるに於ては通信連絡の研究の忽諸に附すへからざるは又吾人の喋々を俟たざるなり本社今斯界のオソリチヤーと稱せらるゝ某氏に囑して本書を公刊するを得、軍國の欲陷を補ふを得たるは私に誇りとする所にして苟くも用兵の眞諦を解し機務の運用を知らんと欲するものは必ず一讀の必要あるべし。

◎發行所

電話芝五六〇五番
振替口座二〇九八七番

兵事雜誌社

陸軍歩兵中佐 石浦謙二郎殿序 陸軍歩兵中尉 石井 淳著

若キ士官へ全

體裁 菊判製本
總クロリス金文字入
一冊 金七拾五錢
送料八錢

空前ナル最近ノ戰亂ハ世界萬人ヲ覺醒シ、茲ニ漸ク一新時代ハ劃立セラレントス、此來リツ、アル新時代ニ處センガ爲メ、帝國將校ノ抱負ヤ如何ニ、修養ヤ如何ニ、本書ハ新時代ニ關スル將校ノ抱負ヲ説キ其修養ヲ述ベ、懇到ナル教示アリ、單刀直入的警告アリ、剴切ナル注意アリ、快刀亂麻ヲ斷ツノ議論アリ、趣味ニ富メル愉快ナル談話アリ、行ルニ流暢ナル言文一致體ヲ以テシ一讀輕快ノ裡、尙且讀者ヲシテ深遠ナル意味ヲ感得セシム。即知ル從來兵要參考書籍ノ「レコード」ヲ破リテ本書ノ出ヅル、寔ニ偶然ニアラザルコトヲ。敢テ一本ヲ座右ニ備ヘラレンコトヲ請フ。

教育研究會著 (中隊長並ニ同分身者ノ絶好無二ノ好參考書)

體裁菊版四十斷

理想的中隊長手簿全

チ「ボツケツト」
持製本本製クロ
一ス金文字入

全一冊 金七十錢 郵税六錢 ◎本書は讀む書に非ず實用手簿也
本手簿ハ多年中隊長ノ職ヲ奉ジ經驗豐富ナル現職研究會員某々氏ノ手ニ成レル實務上ノ手簿ニシテ教育上荷クモ參考トナルベキ者ハ凡テ之ヲ網羅シ殆ド間然スル所ナシ斯クノ如キハ近時稀ニ見ルノ好手簿ニシテ此一本ヲ備フレバ中隊長ノ實務上ニ於ケル成績ハ殆ド完全無缺ナルヲ得テ重要ナル教育實施者ノ職責ヲ全ウスルニ庶幾ガルベキカ希ハクハ一本ヲ購フテ此言ノ欺カザルモノタルコトヲ證セラレンコトヲ。

我陸軍教育之基準書!!

陸軍教育指針 全

體裁ポケット形用字六號
文字、紙頁八百餘頁
製本革製本金文字入
全一冊 定價金八十錢
小包料八錢

教育の諸條規に通曉することは教育を完全ならしむる基礎なり然るに其必要なる條規は極めて多く到底之を諳熟する能はざるなり之を以てか成規を一括して座右に備へ必要に臨み之を繕き以て諳熟の困難に代へざるべからず是れ本社が特に教育に關する必要成規を網羅し之に内務其他分離すべからざる成規を加へて敢て鉛型に附したる所以なり坊間曲範令に關する此種の冊子少しとなさず其教育に關するものに至つて則ち本書あるのみ江湖の諸賢希くは一本を其座右に備へ以て國家教育に遺漏なきを期せられんことを。

發行所

振替貯金東京二〇九八七番
電話 芝 五六〇五番

兵事雜誌社

軍隊教育界空前の大著!!! 再版發行

新教育令 軍隊教育詳解

全二冊 上下

體裁菊版頁數約三百頁宛
製本本製總ク
一冊 金七十五錢宛
小包料八錢宛

軍隊教育令は改正せられて茲に我が軍隊教育上に一新紀元を畫せり然れども軍隊教育令は一の成文なり之が教育實施者にして至當に之を解し其の精神を闡明して敢て戻ることなく其の指向する所に向つて努力するに非ずんば幾度之を改むると雖も我が軍隊教育は決して大なる進歩發展を見ざるなり此の故に事に教育に從ふものは之か研究に腐心し其の精神を擴充して軍國の爲めに努力するに於て敢て遺漏なきを期せざるべからず我が軍隊教育實驗會は夙に茲に感ずる所あり新軍隊教育令を研究し其の精神を闡明し其の意義を擴充して本社に其の公刊を許諾されたり我が軍事界は今や戰術戰略書を得るに難からず軍隊教育に關するものに至りては之を得るに苦む是れ本書の特に必要にして有益なる所以なり敢て江湖篤學篤業の士に一讀を勸む。

發行所

振替貯金東京二〇九八七番
電話 芝 五六〇五番

兵事雜誌社

研究會著
◎唯一の戰術實施の指導書

野外戰術實施指導の要領全

體裁 四六判
用紙 舶來上等洋紙
全一冊 金三十錢
郵税 四錢

野外戰術實施及現地ニ於ケル戰術ノ講話實施法ハ將校團教育ニ極メテ必要ナルモノナルヲ以テ之ヲ行ハザル所ナシ然ルニ其實施法ヲ見ルニ指導者ノ未熟ナルト專修員ノ不馴ナルトニ依リ其成果所期ニ反スルモノナキニアラズ從テ指導者ニシテ其指導ニ苦ミ其實施ハ極メテ困難ナルガ如ク思惟スルニ至リ自信心ノ缺如ト其要領ニ不熟ナルトニヨリ其結果ヲシテ益々不良ナラシムルニ至ル而カモ現行ハル、指導法ハ多ク範ヲ陸軍大學校ニ採ルモ此校ニ於ケル實施要領ハ到底將校團教育並ニ他ノ實施學校初級學校ノ實施法ニ適セサルナリ本書ハ長ク斯導ノ研究ヲ積ミ且ツ其實施ノ經驗豊富ニシテ新實施要領ノ開拓者ヲ以テ任スル基氏ノ親切叮嚀之ガ指導要領ヲ叙述シタルモノニシテ實ニ前記ノ缺點ヲ補正シ野外戰術實施指導法ニ一明燈ヲ揚ゲタルモノナリ江湖斯道ニ志アルモノハ勿論教育者ト被教育者タルト問ハズ苟クモ新智識ニ觸レント欲スルモノハ見落スヘカラサル近時ノ良著ナルコト本社確證スル所ナリ

◎發行所

東京市赤坂區表町二ノ一
電話 芝 五六〇五

兵事雜誌社

軍隊教育實驗會著

模範的小隊長全

體裁 四六判
製本 上四
文字 三十五
全一冊 金三十五錢
郵税 四錢

從來青年將校の職責を説けるもの少しとせず然れども徒らに理想に走り理論に陥り之を具體的に開陳せしものなきは聊か隔靴搔痒の感なき能は青年將校修養の材料に資せしめんとさざりしが本書は著者が嘗て之を遺憾となし青年將校修養の材料に資せしめんとすべく同人等の目睹せし五十人の模範的小隊長に就き証衡卑近なる實例を擧げ以て其職責の準繩を示せしものなり故に小冊子難さ小隊座右銘 指南車なるべき好著 借覽は寫取を申込む者頻なりとの事を斯の如き有益なる書を一部人士の専用に委せんより之を公刊廣く全軍青年將校諸士は以上發展の資に供し將校生徒諸君は以て將來の目標を捉へ上長官進將校指導の參考とせられん

◎發行所

電話 芝 五六〇五番
振替貯金東京二〇九八七番

兵事雜誌社

東京市赤坂區表町二丁目一番地

兵書界の革命的命大の好評書

◎兵書界の革命的新刊!!
 研究会著 ◎大好評を博し忽ち賣切れ第五版發行

戰略戰術詳解

體裁菊版頁數各册
 製本三百頁前
 全七册正價郵税金八錢

研究会の斯界に於ける地位は今更喋々陸軍大學出身者にして樞要なる職務に従事し
 するを要せずと雖も其會員の大多數は陸軍大學出身者にして樞要なる職務に従事し
 實施學校の要職にある者なることは既に讀者の熟知する所なりと信ず。又本社は曩に
 大を刊する所の「戰略戰術詳解」は研究會が我國に良一年有半の歲月を費
 初て完成したる未曾有の大某高等學府の教官の熱誠なる援助とにより産出せられた
 著なり。研究会員の奮勵と其冊數に見る紙數に見る目次に照すも我國戰術書界未嘗有の如
 に正確なるかは茲に贅言し其冊數に見る紙數に見る目次に照すも我國戰術書界未嘗有の如
 するを要せざるべし。其冊數に見る紙數に見る目次に照すも我國戰術書界未嘗有の如
 に對比するも又以て誇りとすに日本の戰術にして大和魂武士道の
 國粹を立脚するに足らざるなり。上將帥より青年將校に至る迄苟も
 戰術を語るに足らざるなり。上將帥より青年將校に至る迄苟も
 者は必ず之を其座右に備へざるべし。陸軍大學受験者年將校と云はんや又管に青
 べからずと信ず豈何ぞ必ずしも陸軍大學受験者年將校と云はんや。

◎發行所

電話 芝 五六〇五番
 振替貯金口座二〇九八七番

兵事雜誌社

本廣告を看過す勿れ

研究会著 兵棋界革新の新刊!!

新式兵棋詳解

體裁菊判。木板數個及附圖
 付。製本本製金文字入
 全一册(金)七十八錢

本書は江湖戰術研究に熱中せらるる諸賢の既に熟知せらるる研究會に於て本邦に於ける
 兵棋のオースリチーと稱せらるる、某氏か其研究に
 基き講演せられたるものなり。
 従來の兵棋は型に囚はれ非實戰的にして趣味も亦極め
 て低かりしか故に之を實施する者甚だ少なりしが如し。
 某氏は深く之を慨し茲に此新式兵棋を唱導し敢て世界
 の進運に後れざらんことを期せり。目下我が高等學府に
 於ては此の方法を採用せられあるに反し軍隊其他に於て依然舊套を脱せ
 ざるは我が軍事界の耻辱ならずとせんや是れ本社が特に研究會と因縁あるを幸ひ請ふて公刊し廣く江
 湖に紹介する所以なり。

◎發行所

振替貯金口座二〇九八七番
 電話 芝 五六〇五番

兵事雜誌社

研究會員某著 ◎第二版發行

實驗に 夜間演習教育全

體裁 菊判
全一冊 金五十錢
郵税六錢

火器の進歩と日露戦争の實驗は吾人に夜間行動の必要を大に感せしむるに至れり然るに夜間の行動たるや晝間の行動と異なり心理的方面の制肘妨害を受くること實に多大なり故に夜間行動の教育は常に此心理的方面の研究を基礎として教育せざるべからず。

本書は即ち此方面より多年實驗致究したる其成稿にして實に此種教育書の泰斗と云ふも過言にあらずとは之れ世評なれば弊社は本書の價値に就き嗚々するを止め左に著者の緒言を掲げ以て廣告に換ゆ、

緒言

日露戦役後夜間演習教育ノ必要ヲ唱フル聲年々ニ喧シ之レ其自然ノ要求是ヲ然ラシムルモノニアラスシテ何ソヤ
予亦夜間演習教育ニ多大ノ趣味ヲ有シ戦役後之ガ研究ニ焦点シツ、アリ而シテ今ヤ數年ノ經驗ト先賢諸官ノ甚大ナル助言ト指導トニ依リテ其經驗ヲ緝録シテ冊子ヲ作セリ本書ラシテ更ニ良好ナルモノヲラシムルハ實ニ大方諸賢ノ貴重ナル實驗ノ發表ト其懇篤ナル助言トニアリ敢テ軍國ノ爲メニ忠實ナル研究ヲ望ミ同時ニ本書ヲ編スルニ當リ甚大ノ助言ヲ與ヘラレタル某校教官諸賢ノ厚意ニ對シ深厚ナル敬意ヲ表ス。

明治四十四年八月

著者 誌

東京市赤坂區表町二丁目一番地

◎發行所

電話 芝五六〇五番
振替貯金二〇九八七番

兵事雜誌社

有志專攻會著

日獨佛新舊射擊教範比較研究

體裁 菊判
紙數 約二百頁

弊社は本書の内容及特長に就き喋々するを止め著者の緒言の一部を左に記し廣告に換ふ

全一冊 金四十錢
郵税六錢

緒言

步兵戰闘ハ射撃ヲ以テ敵ヲ制壓シ銃劍ヲ以テ之ヲ破碎スルニアリ若シ夫レ射撃ノ效力ヲ無視シ徒ラニ白兵ヲ以テ敵ヲ破碎セントスル如キハ樹上魚ヲ求ムルニ如カズトナサズ故ニ苟モ戰勝ヲ欲セバ須ク物質精神兩方面ニ於テ對者ヲ制壓シ兩々相俟チテ以テ絶對的優勝者タルコトヲ努メザルベカラズ茲ニ緒ヲ開キ將ニ沈衰セントスル射撃ニ經驗アルノ故ヲ以テ茲ニ研究ノ緒ヲ開キ將ニ沈衰セントスル射撃界ノ爲メ覺醒劑ヲ呈供セントス是ニヨリ些少ト雖モ軍事界ヲ益スルコトアレバ同人ノ望ハ乃チ足レリトナス

著者 同人

東京市赤坂區表町二丁目一番地

◎發行所

振替貯金東京二〇九八七
電話 芝五六〇五

兵事雜誌社

陸軍砲兵大尉 長澤直三郎殿著

騎砲兵戰術の研究

體裁菊判紙數約二百五十餘頁
全一冊 金五十錢
郵稅六錢

騎砲兵の編成は、歐洲に於ても其の歴史甚だ古からず、故に之が運用と効果とに至りても、亦未だ世人の期待を相距ると遠く、従つて其の價值如何に就いては、冷評熱罵、交々之を悲觀し去る者尠からざるの状態なりき。然れども諸機關の進歩と、最近東亞に於ける大戦争とは、列強をして齊しく之に多大の注意を拂はしめ、因つて以て其の研究漸く歩武を進むると共に、之が擴張の企圖を爲せるもの亦少からざる機運に至れり。故に苟くも戰術を云爲する程の者にして、之が研究を等閑に附するに於ては、遂に列強軍事の大勢に伴ふ能はざるや明けし。本邦に於て特に其の然るを見る。著者乃ち茲に見る所あり、多年の研究と其蘊蓄とを披瀝し公務の餘暇筆を呵して忽ち一書を成し、名けて「騎砲兵戰術の研究」と云ふ。今請うて之を刊行する所以のものは、嘗に其の研究の着實精細なるのみならず、又其の筆致の暢達せるのみならず、實に本邦に於ける該戰術書の嚆矢として、廣く之を大方に推奨せんが爲のみ。思ふに本書一たび出て、我が戰術界更に一新生面を開かん。吾等は江湖篤學なる諸君士の、必ず之を手にせらるべきを信じて疑はず。

◎發行所

電話 芝 五六〇五番
振替貯金口座二〇九八七番

東京市赤坂區表町二丁目一番地
兵事雜誌社

第一輯 第二版 一時品切の處出來す

圖上戰術研究錄

體裁 四六判上等舶來洋
紙數 二百餘頁
正價 金二十拾錢
郵稅 金四錢

兵事雜誌紙上に於て研究せられたる「圖上戰術」を蒐集せるものなり。研究の目的は、一は陸軍大學校學生たらんことを望む者に其豫習を與へ一は常に研究を辿る篤學者の爲めに最新の資料を供するにあり。

研究指導を擔任せられたる某々將校は其技術地位及出身に關し本社に切に敬信する所なり殊に親切に熱心に審査講評の勞を執られ或は原則を説き或は應用を論じ、過を正し疑を解し讀者をして明快なる指導の下に戰術上の技能を増進し清新の智識を吸収すを得しめられたるは本社に感佩措かざる所にして世上識者の同感する所なり。

其の蓄積する所を整理編輯して一書を成したるに俟ち賣切となり一時品切の所今回第二版は出來せり未だ此れが研究を遂げざる諸彦は速に此精華を味ふべく已に兵事雜誌上に於て此研究に接したる諸彦にありても亦常に之を座右に備へ参考の資に供するを懈る勿れ。

◎發行所

東京市赤坂區表町二丁目一番地

兵事雜誌社

電話新橋四二〇二番

買切中なしり本の改訂増補は出せ

◎改訂増補第十一版發行

改正步兵操典詳解

體裁菊判紙數各約三百頁宛
 上卷一冊 郵金 六十六錢
 下卷一冊 郵金 六十六錢

數回ノ大戦役ヲ經テ今ヤ我が帝國ハ列強先進國ノ伍伴ニ入り最新ノ經驗者トシテ世界軍國ノ間ニ大ニ重キヲ爲セリ宜ナル哉其ノ新經驗ニ準據シテ編成セラレタル步兵操典ノ公示セラル、ヤ列強競ウテ之ヲ翻譯シ一日モ新智識ニ後レザラントシテ其ノ研究ニ努力スルコトヤ此ノ如キハ實ニ我が陸軍ノ至大ナル名譽ト言ハザル可カラズ然リト雖モ世運ハ須臾モ停滯セズ吾人ニシテ永ク此ノ名譽ヲ失墜セザラントコトヲ欲セバ必ズ之ニ對スル責任ノ益々大ヲ加フルコトヲ覺悟セザルベカラズ著者諸氏深ク感ゼラル、所アリ特ニ會ヲ結ンデ操典ノ研究ニ其ノ熱誠ヲ注ギ衆思ヲ集メテ其ノ結果ヲ輯録シ以テ曩ニ本書ヲ公ニセラレタリ世間同感ノ士亦乏シカラズ半歲ニシテ版ヲ重ヌルコト四回ニ達シ、供給動モスレバ需用ニ伴ハザラントス而モ其ノ間會ノ事業ハ益進行シ研究日ニ日ニ新ナルモノアリ乃チ今又之ヲ増刷スルノ機ニ際シテ更ニ改訂増補ノ試ミ改訂増補シテ面目ヲ新ニスルニ至レリ其ノ研究ノ進境ハ大ニ人意ヲ強ウスルニ足ルモノアリ必ズヤ讀者ノ渴望ヲ醫スルニ餘リアラン讀者其ノ内容ヲ檢シテ此ノ讚辭ノ溢美ニアラザララ知ラレ

◎發行所

電話 芝 五六〇五番
 振替貯金發號 二〇九八七

兵事雜誌社

東京市赤坂區表町二丁目一番地

◎見よ看よ好評嘖々忽ち第二版發行の本書を
 研究會 著

改正騎兵操典詳解 全

體裁 菊判
 頁數 三百餘頁
 正價 金七十五錢
 郵稅 八錢

本書は讀書界に於て破天荒の大好評を博し未だ僅々 年餘にして版を重ぬること九回の盛譽を擔ひたる改正步兵操典詳解、改正野戰砲兵操典詳解、戰略戰術詳解等と同じく研究會の產物なれば、其の解説の精確なると其の講述の懇篤なるは今更改めて弊社が茲に喋々する迄もなく讀者は既に了知する所ならん、宜なる哉發行早々好評嘖々たり

◎發行所

振替貯金口座 二〇九八七番
 電話 芝 五六〇五番

兵事雜誌社

東京市赤坂區表町二丁目一番地

Y S 生 編 好評噴々たる新刊

新撰 英文和譯 英文法 試驗ニ擬セル問題ト答解全

體裁四六四十八載チ
携本製金文字入
帶至極便利
全一冊 正價金五十錢
郵税金四錢

大學入學試驗問題中戰術、兵器、築城等ニ關スル著書ハ之ヲ求ムルコト難カラズ、獨リ語學ニ關スル著書ニ至リテハ絶無トモ謂ヒ得ベシ、是レ語學ガ他ノ軍事學ニ比シテ輕視セラル、ニ因ルモノナルカ、將タ又其事困難ナルニ因ルモノナルカ、吾人ノ聞ク入學試驗問題解答ノ彩點法ハ軍事學タルト語學タルトヲ問ハズ悉ク同一程度ニシテ輕重ナシト、是レ江湖篤學ノ士ガ早ク既ニ渴望シテ本書ノ出ヅルヲ待タレシ所以ナランカ、世ニ語學者多シ然レトモ軍事ニ通曉スル語學者ニ至リテハ鮮ナシ從ツテ有名ナル語學者ノ著書モ其軍事ニ亘ル事項ニ至リテハ抱腹ニ堪エザルモノアリ本著者ハ軍事ニ通曉シ其兵語ノ如キ最モ得意トスル所ナルヲ以テ本書ヲ著スニ於テ最モ恰適スルモノト謂フベシ是レ本社ガ世ノ渴望ヲ醫スルニ眞ノ良藥ヲ以テシ得ルヲ誇リトスル所以ニシテ敢テ精研ヲ推契スル點ナリトス江湖ノ士軍事學ノ研鑽ト共ニ語學ノ力ヲ開發シ中原ノ鹿ヲ獲ルニ於テ缺如スル所ナキヲ期セラレヨ。

●發行所 東京市赤坂區表町二丁目一番地 問事雜誌社
電話新橋二六〇五番 振替東京二〇九八七番

大評好の書第三版出版來す

四十一年度戰術再審問題答解増補第三版 晴軒居士著

陸軍戰術再審問題解答 附 受驗要領

木頁體 全一冊 版數裁 金大二百 郵税金五拾 錢六拾 錢入頁判

陸軍大學の入學試験は如何に執行せらるるか又其の準備を如何にすべきかに就ては吾人が受驗者と共に從來幾度か知らんと努めたる所なりしも多くの場合に於ては唯多數受驗者の談片を綜合して單に六ツかしきものなりとの臆測を専らにせしめしに過ぎず從つて其の再審問題の如きに至りては更に漢として何等具體的の明示を得ると困難なりしが今や戰後の發展は益々人材の登用を促すと共に本社をして遂に此の誇大誇張の言辭を弄するや無く順序として本書の内容を語るに先だち先づ以て受驗者の前途を祝福せざるべからざるもの有り何ぞや即ち本書は數年前に於て早く既に大學の門を出て今や軍事界一方の覇者として地位名望共に畏敬すべき晴軒居士氏が後進受驗者の請に任せて諄々講話せるもの係り而も之等の數氏は引續きて同じく入學試験に合格せると是れなり本社が本書を刊行し讀者の前途を祝福する所以の理由實に茲に存す。

◎發行所 電話 芝 五六〇五番 振替貯金口座二〇九八七番 東京市赤坂區表町二丁目一番地 兵事雜誌社

土曜會著

明治四十五年度

陸軍大學校入學初審試驗

問題解答研究

全一冊 金二十錢 郵税二錢

曩に「各種戰鬥に於ける諸兵種協同動作之原則」なる袖珍戰術書の公刊に因り、聲名頗に噴々たる土曜會に於て、毎年初審試驗終了後、其會員の受験者は各自答解草稿を携行し相集まりて仔細に幹事の之に關する批評研究を仰き、以て受験者は如何に答解すへかりしかを知り、後進會員は以て將來如何に答解を作為すへきかを會得せんとするを例とすと言ふ、本社之を聞き其之に關する筆記録を懇請して茲に本書を公刊するに至れり、信すらく、本書の讀者にして受験者たらんか以て其因るへき所を知得首肯するを得べく、受験者たらざるも亦將來受験に際し答解構成上の確切明晰なる指針を獲得して利する所必ず大なるを得ん眞に苟くも登門の志ある者の必ず一讀せられんことを切望す。

東京市赤坂區表町二丁目一番地

發行所

電話 芝 五六〇五 振替貯金口座二〇九八七

兵事雜誌社

兵監

山口中將閣下の書翰 丸尾騎兵少佐殿の書翰

太田 淳著

馬術教範詳解 全

體裁四六版頁數約三百頁 說明數十個 製本本クロース本製金文字入 全一冊 郵金六十五錢 稅八錢

近時我邦ニ於ケル馬術ハ漸次發展進步シタリト雖モ之ヲ列強ニ比スレハ遜色ナキヲ免レズ論者或ハ曰ク我邦馬術ノ不進歩ハ馬ノ劣惡ナルニ因ルト馬ノ劣惡素ヨリ至大ノ關係アランモ眞ノ馬術ハ必スヤ其國馬匹ノ素質性情ニ適應シ其用途ニ緊喫ナラザルベカラズ果シテ然ラバ我國ニハ我國ノ劣惡ナル馬ニ適應スル馬術ナカルベカラザルナリ是レ我邦馬術研究ノ一刻モ忽ニスベカラザル所以ニシテ又本書ノ産出セシ所以ナリ世ニ騎兵科本位ノ馬術書ナキニアラズト雖モ一般ニ亘リ委曲ヲ悉シタルモノ少ナシ是レ本書ノ更ニ必要ナル所以ナリ世ノ馬術ニ心アル者ハ勿論苟クモ騎乗シテ軍職ヲ執ル者ハ先ツ本書ヲ繙カザルベカラズ是レ本社ガ敢テ一讀ヲ勸ムル所以ナリ。

發行所

電話 芝 五六〇五番 振替貯金口座二〇九八七番

兵事雜誌社

東京市赤坂區表町二丁目一番地

好評嘖々書本は某々隊の教

教育研究會著

豫備見習士官ノ良師友出ツ!!

士官候補生 一年志願兵 豫備見習士官用	士官候補生 一年志願兵 豫備見習士官用	士官候補生 一年志願兵 豫備見習士官用	士官候補生 一年志願兵 豫備見習士官用
戰術學教程	戰術學教程	地形學教程	兵器學教程
一卷	二卷	全	全
一冊金三十五錢 郵税金六錢	一冊金三十五錢 郵税金六錢	一冊金五十錢 郵税金六錢	一冊金五十錢 郵税金六錢
		全	全
		一冊金五十錢 郵税金六錢	金三十拾五錢 郵税金四錢
			軍制學教程
			候

教科書採用の榮光を得たり

軍事ノ進歩ハ益々大兵團ノ使用ヲ促シ從ツテ豫備將校ノ奮勵ヲ待ツヤ甚大ナリ此時ニ當リ本社ハ士官候補生用、一年志願兵用、豫備見習士官用教程ノ編纂ヲ托スルニ天下已ニ定評アル教育研究會ヲ以テセリ而シテ研究會ハ其ノ獨特ノ蘊奧ヲ遺憾ナク發露シ以テ天下一品ノ良教程ヲ編纂シタルシムルコトヲ期セリ本教程ハ新教育令ヲ經トシ士官學校ノ教程ヲ緯トシ之ニ加フルニ教程毎ニ各種問題ヲ列舉スルコト實ニ數百而シテ其内容ノ整然、陳述ノ正確ナルハ獨リ該教育上ノ良教程トシテ古今其比ヲ見サルノミナラス獨學自習ノ好侶伴タルコト實ニ軍事界ノ羅針タリ、故ニ熱誠ナル諸賢ハ速ニ一本ヲ座右ニ備ヘ以テ其研鑽ニ資セラレ人後ニ落チザランコトヲ

一年志願兵ノ福音出ツ!!

◎發行所

電話芝五六〇五番
振替貯金口座二〇九八七

兵事雜誌社

東京市赤坂區表町二丁目一番地

8-H-II

終

55